

横須賀市 博物館報



- 目 次 -

はじめに

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示	3
2 研究発表会	16
3 調査等出張	16
4 ニュース	26

博物館事業概要 令和2年度(2020年4月～2021年3月)

5 展示教育普及事業	
(1) 主催事業①(展示)	32
(2) 主催事業②(学習会)	35
(3) 主催事業③(イベント等その他)	38
(4) 主催事業④(出版・制作)	40
(5) 共催・協力事業	41
(6) 学校教育指導・対応	41
(7) 学校教育以外の指導・対応	42
(8) 報道発表・取材等協力	43
6 収集調査研究事業	
(1) 調査・研究	46
(2) 研究発表・執筆	47
(3) 学術研究団体・会議等協力	49
7 分類整理保存事業	
(1) 資料の寄贈・借用	51
(2) 登録資料	51
(3) 資料の利用	52
(4) 資料の保守・保存環境保全	53
8 管理事業	
(1) 施設利用	56
(2) 開館園日数・入館園者	57
(3) 人 事	57
(4) 予 算	57
(5) 営繕工事	57
(6) 消防訓練・避難訓練	57
(7) ホームページ・メールマガジン・SNS	58
(8) 講習会等の参加	58

職員名簿(令和2年度)・表紙写真解説	裏表紙裏
--------------------	------

はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった1年となりました。当館においても感染防止の観点から約4か月間臨時休館を余儀なくされ、特別展示「足跡化石から探る太古の世界—恐竜からナウマンゾウまで—」をはじめ、多くの博物館行事を中止せざるを得ない状況に至りました。そのため、例年は校外学習など様々な機会に来館していただいている小学生のみなさんにお会いする機会にも恵まれませんでした。

そのような中、博物館では臨時休校となった子どもたちへの学習支援の取り組みとして、「おうちで博物館」と題して、館公式ホームページ上で「横須賀市博ムービーチャンネル」を開設し32本の動画を公開するとともに、5月28日から8月29日まで「おうちで博物館ぬりえ+（プラス）」と題して博物館指定の図案を用いたぬりえを募集し、11月1日に表彰式を行いました。外出もままならない状況の中で、博物館として何ができるか考え、取り組んだ1年でした。

また、このような状況下ではありましたが、今後の展示に生かすべく、近年に新設・大規模リニューアルを実施した博物館への視察も行いました。最新の展示手法、魅力ある展示方法などを体感するとともに、他館の実情をお聞きすることができました。視察を受入れていただいた各博物館にはこの場を借りてお礼申し上げます。

当館はこれからも、昭和29年の設立以来長年蓄積されてきた横須賀の歴史や自然について、楽しく、わかりやすくお伝えし、多くの皆様に親しまれる地域の博物館を目指してまいります。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

横須賀市自然・人文博物館

《ポスター》



企画展示①「ヨコスケンセよこすかの歴史を彩る植物たち」



企画展示②「浦賀からやってきました資料たち」



みんなの理科フェスティバル
※開催中止



「おうちで博物館」

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示

(1) 企画展示

ア 企画展示①

「ヨコスケンセー -よこすかの歴史を彩る植物たち-」

「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」(神奈川県立生命の星・地球博物館 2018 年度特別展)の巡回展の第2部として開催するとともに、横須賀・神奈川における植物研究史をたどりながら、現在までの植物研究の成果を標本や文献とともに紹介した。以下、展示コーナー毎にパネル全文と展示資料を掲載。なお、展示パネルと展示資料の一部は神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵。

担当：山本

開催場所

本館特別展示室

開催期間・見学者数

本誌 p.29, 5-(1)-アを参照

関連事業

展示解説(中止)(本誌 p.32, 5-(2)-ウ)

展示内容

以下、展示区画毎に解説パネル内容と展示資料内訳を掲載

展示区画①：はじめに

・パネル

「はじめに」(以下全文)

企画展示「ヨコスケンセー -横須賀の歴史を彩る植物たち-」にご来場いただき、ありがとうございます。

横須賀は、日本近代史だけでなく植物研究史においても重要な地域であるにも関わらず、そのことはあま

り知られていません。江戸時代末期にたてられた横須賀製鉄所では、日本の近代化を牽引すると同時に、横須賀産を含む多くの植物が調べられ、日本の植物研究の発展に大きく貢献しました。古くから国内外の多くの人の手によって植物標本が集められている横須賀・神奈川は、今日でも研究者や市民の手による地域の植物研究が進められ、「もともと植物が調べられている地域」といわれています。本展では、横須賀・神奈川における植物研究史をたどりながら、現在までの植物研究の成果を標本や文献とともに紹介します。

この展示が皆様にとって、改めて地域の自然や歴史に目を向ける機会になれば幸いです。

【協力】神奈川県立生命の星・地球博物館／神奈川県植物誌調査会／海老原 淳(国立科学博物館)

令和2(2020)年3月14日

横須賀市自然・人文博物館

(補足パネル)(以下全文)

本展示は、神奈川県立生命の星・地球博物館が開催



展示室入口



1 ヨコスケンセーとは

した特別展を受けての巡回展示, その第2部です。2月まで開催した第1部では, 特別展の核となった『神奈川県植物誌2018』の紹介と, 当館が市民とともに行った調査・収集活動の成果を展示しました。

展示区画②: 1 ヨコスケンセとは

・展示資料

植物標本3点: ヘビノネゴザ, テリハノイバラ, オトメアオイ

文献資料2点: 『François-Léonce Verny』(Vincent BALAY 2017), 『すべては製鉄所から始まったーMade in Japanの原点ー』(菊地勝広 2015)

写真資料2点: 「対岸から見た横須賀製鉄所」(年次不詳), 「首長ヴェルニー住居・ロープ工場など」(1867~1868)

・パネル

「横須賀製鉄所ゆかりの植物」(以下全文)

和名 ヘビノネゴザ (メシダ科)

学名 *Athyrium yokoscense*

ヘビノネゴザは「横須賀製鉄所」の医師サヴァティエが横須賀で発見したシダ植物です。新種として発表された際, 横須賀にちなんだ「学名」(世界共通の名前)がつけられました。

「横須賀製鉄所」とは」

横須賀製鉄所は, 江戸時代末期に建設がはじまった, 当時の日本最大の工場でした。主に船の修理と造船を目的としていました。日本の近代化を進めるための国家プロジェクトでもあり, 当時導入された西洋の技術には, 今日でも使われているものが多くあります。

「横須賀製鉄所の役割と功績」(以下全文)

・船の修理と造船 国産初の洋式艦船やヨーロッパ航

行船など

・日本初の西洋式灯台の建設「観音崎灯台」「品川灯台」など

・工学研究と教育 日本人技術者養成校「巖倉」の設立

・全国の工場の機械や部品の生産

・「富岡製糸場」の設計

・レンガ技術の導入

・鉄筋コンクリート技術の導入

・メートル法の導入

・木材研究の推進 材の比重や強度をまとめる

・横須賀製鉄所建設中にナウマンゾウ化石発見

・日曜日の概念が伝わる

・西洋料理が伝わる

(補足パネル①) (以下全文)

「ヨコスケンセ」とは? 明治時代のはじめ, 横須賀製鉄所の医師サヴァティエが横須賀で発見した *Asplenium* 属の植物につけた名前(学名)「*yokoscense*」の読みです(今は *Athyrium* 属に変更)。和名はヘビノネゴザ。今も横須賀市内に生育するシダ植物です。

(補足パネル②) (以下全文)

横須賀製鉄所ゆかりの植物はヘビノネゴザだけではありません。サヴァティエの妻ルシーの名がついたテリハノイバラ (*Rosa luciae*), サヴァティエの名がつけられたオトメアオイ (*Asarum savatieri*) などがあります(オトメの由来は箱根の乙女峠です)。

(補足パネル③) (以下全文)

横須賀製鉄所の医師サヴァティエの任務には「木材調査」もありました。東北地方へ調査に出かけた記録もあります。日本各地の木材について比重や強度を調べてまとめました。また, サヴァティエは, 横須賀製



2 神奈川や横須賀の植物調査史 (全景)



2 神奈川や横須賀の植物調査史
2-1 江戸時代の植物研究

鉄所建設中にナウマンゾウの化石も見つけています。
 (補足パネル④) (以下全文)

「1 ヨコスケンセとは」の次は、「2 横須賀や神奈川の植物調査史」のコーナーです。神奈川県は「植物が最も調べられている地域」といわれます。その理由を、展示している資料や年表から探ってみましょう。「人物相関図」もあわせてご覧ください。

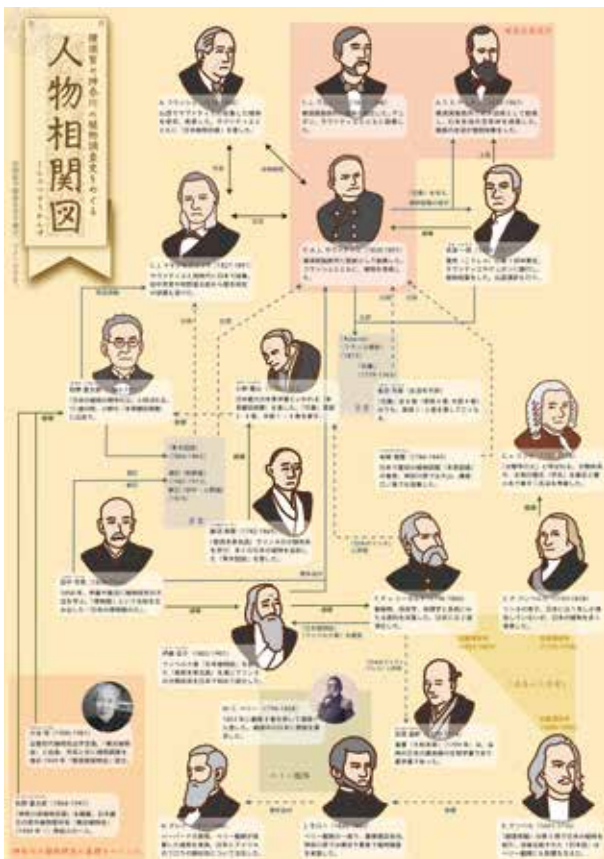
展示区画③：2 神奈川や横須賀の植物調査史

・パネル (以下全文)

植物調査の歴史をたどろう

神奈川県は、もっともその植物相が把握されている都道府県のひとつです。その基礎には、鎖国中の江戸時代にも、長崎の出島に滞在した外国人が江戸参府の途中に県内で標本を採集したこと、開国後、植物採集を目的に外国人が訪れ、開港した「横浜」などを拠点に活動したこと、明治時代以降、首都東京に近く自然豊かな地として、日本の植物学者が採集に訪れたこと、それらの植物学者に指導を受けた愛好家が盛んに活動したことなどによります。

ここでは、横須賀や神奈川県における、江戸時代から現在までの植物調査史を紹介します。



人物相関図

2-1 江戸時代の植物研究

・ミニパネル① (以下全文)

江戸時代の植物研究に注目してみましょう。鎖国中も長崎の出島に滞在した外国人が江戸参府の途中に神奈川で植物を調べています。日本で採集された最古の植物標本は、出島の医師ケンペルが箱根で採集したハコネシダの標本です(展示中の標本は横須賀産です)。

・ミニパネル② (以下全文)

ケンペルの植物採集の様子は『新編相模国風土記稿第一巻』にも記されています(展示では第六巻を紹介)。ケンペルの江戸参府の1年後には、貝原益軒が江ノ島や鎌倉を巡り、参府しました。後にシーボルトは益軒を「日本のアリストテレス」と評しています。

・ミニパネル③ (以下全文)

ケンペルの後、1775年にツンベルクが長崎に医師として来日しました。1年ほどの滞在でしたが、多くの植物を調べました。江戸参府の途中、箱根で植物を採集し、ハンカチに包んだという逸話もあります。展示ではツンベルクの『日本植物誌』を紹介しています。

・ミニパネル④ (以下全文)

ツンベルクの後、1823～1829年にシーボルトが来日しました。彼は、後に神奈川の植物研究に関わる植物学者にも影響を与えています。見どころは、シーボルトが著した『日本植物誌』中の線画と、後年これを彩色した『原色日本精密図譜』の美しい植物画です。

・ミニパネル⑤ (以下全文)

シーボルト来日中、多くの蘭学者や本草学者が彼を訪ねました。その一人、岩崎瀧園は、鎌倉、江ノ島などでも調査し『本草図譜』を著しました。この頃は日本の近代植物学の黎明期でした。展示では、瀧園の『草



2 神奈川や横須賀の植物調査史
 2-1 江戸時代の植物研究

木育種』と『本草図譜総合解説』を紹介しています。

・ミニパネル⑥ (以下全文)

生物の学名に使われる「二名法」はリンネが考案し、後に伊藤圭介が著した『泰西本草名疏』により日本へ紹介されます。そのきっかけは、シーボルトが『日本植物誌』(ツンベルク著)を伊藤へ贈ったことにあります。日本が近代的な植物学に出会った瞬間です。

・展示資料

植物標本5点: ハコネシダ, アキノタムラソウ, スイカズラ, スカシユリ, イロハモミジ, トベラ,

写真資料(植物生態写真)4点: スイカズラ, スカシユリ, イロハモミジ, トベラ

文献資料18点: 『大日本地誌体系 新編相模国風土記稿 第六巻』(雄山閣版1980), 『養生訓・和俗童子訓』(貝原益軒/石川謙1961), 『草木育種(上)』(岩崎灌園1818), 『草木育種(下)』(岩崎灌園1818), 『草木育種(下)』(岩崎灌園1825), 『本草図譜総合解説 第一巻』(北村四郎・塚本洋太郎・木島正夫1986), 『本草図譜総合解説 第二巻』(北村四郎・塚本洋太郎・木島正夫1988), 『INSTITUTIONES REI HERBARIÆ TOMUS PRIMUS 植物学の基礎(羅語第3版) 第1巻』『同 第2巻』(JOSEPHI PITTON TOURNEFORT トウルヌフォール1719), 『図説普通植物検索表』(牧野富太郎1950), 『特別展リンネと博物学 自然誌科学の源流』(千葉県立中央博物館1994), 『FLORA JAPONICA 日本植物誌』(THUNBERG ツンベルク1784 [1933]), 『精選牧野植物図集』(牧野富太郎1969), 『SYNOPSIS

PLANTARUM OECONOMICARUM Per UNIVERSUM REGNUM JAPONICUM 日本有用植物概説』(SIEBOLD シーボルト1830 [1933]), 『FLORA JAPONICA 日本植物誌』(P. F. DE SIEBOLD. ZUCCARINI ツツカリーニ1835-1870 [1932]), 『原色精密日本植物図譜』(シーボルト/木村陽二郎1984), 『増補懐中食性』(山本亡羊1848) 『幕末日本探訪記』(ロバート・フォーチュン/三宅馨 訳1997)

植物画4点: 「ハマナス」, 「テマリバナ」, 「ツバキ」, 「ビワ」(いずれも『原色精密日本植物図譜』 附録)

2-2 開国と近代化の中の植物

・ミニパネル① (以下全文)

シーボルトの後、1853年には黒船が来航します。ペリー艦隊は横須賀でも植物を採集しており、猿島はペリー島とも呼ばれていました。1866年の横須賀の写真と『ペリリ総督の日本遠征報告』, ペリー艦隊が発見した植物のひとつ「ヒメカンスゲ」を展示しています。

・ミニパネル② (以下全文)

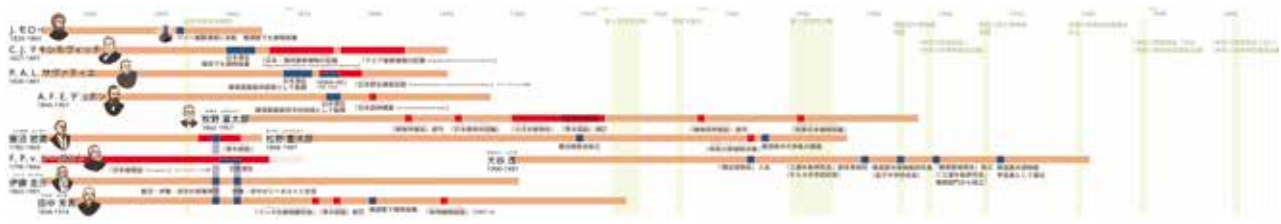
開国後、多くの外国人が植物調査に来日します。横須賀製鉄所の私人医師サヴァティエは、本務の傍ら、デュポンや佐波一郎に依頼して植物を集めました。彼は同時期に植物調査を本務に来日したロシアのマキシモヴィッチに対し「羨ましい」と感じていたそうです。

・ミニパネル③ (以下全文)

サヴァティエは小野蘭山・島田充房の『花彙』を高く評価し、仏訳して本国に紹介しました。シーボルト



年表 (江戸時代の植物研究)



年表 (開国と近代化の中の植物)

も將軍の侍医が蘭訳した『花彙』を受け取っています。小野蘭山の弟子・飯沼慾齋の『草木図説』もまた、来日外国人に高く評価され、引用されています。

・ミニパネル④ (以下全文)

伊藤圭介は再来日したシーボルトと再会、同席した田中芳男とその後も研究を続けました。横須賀製鉄所で標本を受け取ったサヴァティエや、シーボルトの標本を整理したミクエルらによって記載された植物に伊藤の名がついたことから、彼の貢献がうかがえます。

・ミニパネル⑤ (以下全文)

『草木図説』を著した飯沼慾齋や『泰西本草名疏』を著した伊藤圭介に植物研究を学んだ田中芳男は、神奈川でも標本を採集し、パリ万博に出展しました。彼は日本の博物学に尽力し「博物館の父」と言われています。サヴァティエらは彼の名を植物につけています。

・ミニパネル⑥ (以下全文)

サヴァティエはパリ自然史博物館のフランシェとともに多くの植物を発表、共同で『日本野生植物目録』を著しました。本書は、日本においては明治期の植物学の教科書になり、欧米においては日本の植物を知るための基礎文献にもなりました。

・ミニパネル⑦ (以下全文)

「2 横須賀や神奈川の植物調査史」の次は「3 昭和・平成から令和へ」です。明治時代以降、日本の植物研究は外国人の手から日本人研究者の手に移りました。『神奈川県植物誌 2018』の刊行まで繋がる、神奈川・横須賀での植物研究の歩みを紹介します。

・展示資料

植物標本 10 点: ヤマザクラ, ヒメカンスゲ, アシタバ, マルバスミレ, イヌザクラ, スズラン, ムカゴネコノメソウ, ノハラアザミ, ミヤマイタチシダ, マルバコ

ンロンソウ

写真資料 1 点: 「横須賀村と猿島」(1866)

文献資料 17 点: 『ペリー日本遠征記図譜』(豆州下田資料館編 1856 [1998]), 『CORRESPONDENCE RELATIVE TO THE NAVAL EXPEDITION TO JAPAN ペリリ提督の日本遠征報告(米国議会報告書)』(PERRY ペリー 1855), 『マキシモヴィッチ 東亞新植物綜覧』(C. J. MAXIMOWICZ マキシモヴィッチ 1866-1893 [1943]), 『花の沫 植物学者サヴァチエの生涯』(竹中裕典 2013), 『草木圖説 木部(上)』『同(下)』(飯沼慾齋/北村四郎編註 1977), 『海軍技午養成所系統出身同窓名簿』(學友交誼會 1934), 『増訂 草木圖説 草部 I』『同 草部 II』(飯沼慾齋/牧野富太郎再訂増補 1907 [1988]), 『増訂 草木圖説 草部 III』『同 草部 IV』(飯沼慾齋/牧野富太郎再訂増補 1913 [1988]), 『L' Œillet d' Oleron Le lys du Japon』(MICHEL SAVATIER 2010), 『LIVRES KWA-WI ENUMERATIO PLANTARUM』(A. FRANCHETLU・D. SAVATIER 1875), 『花彙(上)』『同(下)』(小野蘭山・島田充房 1759 [1977]), 『植物研究雑誌 第 1 卷 第 9 号「植物家沸医サヴァチエ氏ノ事蹟」』(今井忠宗 1917), 『日本植物圖説集』(牧野富太郎 1934)

展示区画④: 3 昭和・平成から令和へ

・パネル (以下全文)

現在につながる植物研究

明治時代以降、日本の植物研究は、外国人の手から、牧野富太郎をはじめとする日本人研究者に移りました。牧野は、自らが採集するだけでなく、地方の植物愛好家たちを熱心に指導しました。さらに、各地の植物愛好家によっても多くの植物が採集されました。当



2 神奈川や横須賀の植物調査史
2-2 開国と近代化の中の植物

館の初代植物担当学芸員である大谷 茂も牧野の指導を受けた一人です。

神奈川における植物研究は多くの人に引き継がれ、その後の神奈川県植物誌調査会発足ならびに『神奈川県植物誌 1988』、『同 2001』、『同 2018』の刊行に繋がっていきます。

3-1 横須賀の植物研究の歩み

・ミニパネル① (以下全文)

「日本の植物分類学の父」牧野富太郎は大学での植物研究だけでなく、在野の植物愛好家を熱心に指導しました。牧野は「横浜植物会」の活動に多く参加し、当館の初代植物担当学芸員 大谷 茂も指導を受けました。横須賀製鉄所の佐波一郎を訪ねた記録もあります。

・ミニパネル② (以下全文)

東京に近く自然豊かな神奈川は、早くから植物調査が盛んでした。昭和初期～中期、横須賀を含む横浜～三浦半島では、『神奈川県植物目録』や『横須賀市天神島の調査』をまとめた松野重太郎、当館初代植物担当学芸員の大谷 茂らによる植物相調査が行われました。

・展示資料

植物標本 4 点：シロヤマブキ、ウバユリ、オオタニイノデ、ナチクジャク

写真資料 6 点：「天神島を視察する大谷茂」(赤星コレクション 1952)

文献資料 23 点：『植物分類研究 (上)』(牧野富太郎 1935)、『植物分類研究 (下)』(牧野富太郎 1936)、『日本植物図説集』(牧野富太郎 1934)、『牧野日本植物図鑑 改訂版』(牧野富太郎 1940)、『植物集説 (上)』(牧野富太郎 1935)、『植物集説 (下)』(牧野富太郎

1936)、『植物随筆集』(牧野富太郎 1935)、『植物記』(牧野富太郎 1943)、『牧野新日本植物図鑑』(牧野富太郎 1961)、『植物学名辞典』(牧野富太郎・清水藤太郎 1935)、『横浜市植物会年報 第 2 号』(横浜植物 1973)、『牧野日本植物図鑑 改訂版』(牧野富太郎 1940 [1949])、『Botanical Note (会報 3 号～75 号所載)』(大谷茂)、『神奈川県植物誌』(神奈川県博物館協会 編 1958)、『大谷茂業績集 I』(横須賀市博物館 1932・63)、『大谷茂業績集 II』(横須賀市博物館 1964 - 71)、『大谷茂業績集 III』(横須賀市博物館 1972 - 77)、『広報よこすか 7 月号』(横須賀市役所 1979)、『神奈川県植物目録』(松野重太郎 編 1933)、『神奈川県植物誌』(神奈川県植物誌調査会 編 1988)、『神奈川県植物誌』(神奈川県植物誌調査会 編 2001)、『神奈川県植物誌 (上)』『同 (下)』(神奈川県植物誌調査会 編 2018)

3-2 神奈川県植物誌の編纂

・パネル (以下全文)

『神奈川県植物誌 2018』

「植物誌」とは、植物の戸籍簿ともいわれ、ある地域(地理的空間)に生育する植物の構成(-植物相)について、記録を元にまとめた本です。植物誌の元となる記録は、記憶、文字、写真、標本などがありますが、中でも標本は、後世の人が確認できる(-再検証可能な)証拠として最も信頼性の高い記録の形です。

『神奈川県植物誌 2018』は、神奈川県内の全ての植物について、現在の自生状況と過去の標本を調査した最新の成果です。標本に基づく分布図、形態の記述や検索表、植物を見分けるための図などがあり、図鑑としても使うことができます。



2 神奈川や横須賀の植物調査史

2-2 開国と近代化の中の植物 (製鉄所ゆかりの植物の標本)



3 昭和・平成から令和へ

3-1 横須賀の植物研究の歩み

『神奈川県植物誌 2018』編纂のための調査でわかったこと

■ 新種として記載された植物

ハコネキンミズヒキ 2008年にオオキンミズヒキの亜種として記載

タンザワサカネラン 2008年に新種として記載

■ 神奈川県新産の在来植物

コウシンテツカエデ, ミヤマササガヤ, センダイタイゲキ, トウゴクシソバタツナミ, キンセイラン, ジンジソウ, ナヨテンマ, イワヤシダ

■ 神奈川県で再発見された在来植物

アズマギク, フジチドリ, クガイソウ

■ 日本新産の帰化植物

アレチアミガサソウ, アレチイボクサ, ハリフタバモドキ, ホシケチドメグサ, ハナカザリゼリ (ホホワイトレースソウ)

■ 分布が拡大した帰化植物

マルバフジバカマ, キダチコマツナギ, シンテッポウユリ, ナガミヒナゲシ, ウラジロチチコグサ, マツバウンランなど

■ 分布が縮小した帰化植物

ブタクサ ブタクサハムシの影響

■ 分布が拡大した在来植物

タシロラン, マヤラン, カヤラン, ヤマホオズキなど手入れが行き届かなくなった雑木林の常緑広葉樹林化などが影響

■ 分布が縮小した在来植物

オカオグルマ, サワヒヨドリなど 生育地 (湿地や草原) の減少

ノブキ, ヒナノウスツボなど 二ホンジカの過度の採食が影響

・ミニパネル① (以下全文)

神奈川での植物研究は多くの人に受け継がれ、1979年には「神奈川県植物誌調査会」発足、会員数は現在約250名を数えます！

※「植物誌」とは、地域に生育する植物を調べてまとめたもので、域内に点在する博物館が核となり市民とともに地域を記録した集積です。

・ミニパネル② (以下全文)

「神奈川県植物誌調査会」は、県内全ての植物を調査し、『神奈川県植物誌 1988』、『同 2001』を刊行しました。最新版の『神奈川県植物誌 2018』では、その調査期間中に、新種として発表された植物、県新記録の植物、日本新記録の帰化植物などが記録されています。

・ミニパネル③ (以下全文)

『神奈川県植物誌』は標本に基づいて編さんされます。標本とは後世の人が再検証可能な、最も信頼できる証拠です。地域の博物館が植物誌編さんの核となり、標本を介した人の繋がりが生まれました。当博物館も、蓄積された標本や人々の繋がりを大切にしたいです。

・展示資料

植物標本 5点：ブタクサ, タシロラン, マヤラン, カヤラン, ヤマホオズキ

植物レプリカ 4点：シンテッポウユリ, ナガミヒナゲシ, マツバウンラン, ウラジロチチコグサ (いずれも神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵)

写真資料 (生態写真)：ブタクサハムシ, タシロラン, マヤラン, (以下、神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵) カヤラン, ハコネキンミズヒキ, トウゴクシソバタツナミ, クガイソウ, タンザワサカネラン, ホシケチドメグサ, マルバフジバカマ, キダチコマツナギ,



3 昭和・平成から令和へ
3-2 神奈川県植物誌の編纂



3 昭和・平成から令和へ
3-2 神奈川県植物誌の編纂 (レプリカ展示)

オカオグルマ

文献資料2点：『神奈川県植物誌（上）』『同（下）』（神奈川県植物誌調査会 編 2018）

展示区画⑤：4 身近な春の植物

（当初予定していた開催期間中に見ごろを迎える身近な植物の画像を壁面に展示）

・展示資料

写真資料（生態写真）35点：シロツメクサ、フキ、ニリンソウ、シャリンバイ、ヒメオドリコソウ、トキワハゼ、タニギキョウ、ハコネウツギ、フラサバソウ、オオイヌノフグリ、ムラサキケマン、コハコベ、タチツボスミレ、ツルカノコソウ、キランソウ、ドクダミ、タネツケバナ、シュンラン、ギンラン、セイヨウタンポポ、エビネ、キンラン、アマナ、ホウチャクソウ、マルバウツギ、テリハノイバラ、カキドオシ、ヤマネコノメソウ、カタバミ、ハマダイコン、イロハモミジ、ハルジオン、モミジイチゴ、オオシマザクラ、ハマボッス

体験学習コンテンツ（植物ぬり絵）2点：ハマナデシコ、スカシユリ

第1部同様、横須賀の植物に親しめるようなコンテンツを用意した。感染症対策のため、ぬり絵用紙を配布するのみにとどめた。

展示区画⑥：コラム 新種を発表するには？

・パネル（以下全文）

新種を発表する

新種を発表するには、以下のようなルールにしたがって論文を書きます。

- 新種の学名をラテン語で明記する
- 種の特徴や近縁種との違いを明記する

■ 学名の基準となるタイプ標本を指定する

■ タイプ標本の採集情報と保管先も明記する

タイプ標本とは

学名の基準となる標本はタイプ標本（ホロタイプ：正基準標本）と呼ばれ、新種を発表するときに必ず指定しなければならない、世界でただひとつの標本です。タイプ標本が採集された産地をタイプ産地（基準産地）といいます。

学名とは

生物につけられる世界共通の名前が学名です。

学名は、「*Homo sapience*」（ヒトの学名）のように、属名（*Homo*）と種小名（*sapience*）を組み合わせた二名法を用いて表します。

学名の末尾には、命名者（その植物の新種を発表した人）の名前が記されています。例えば、牧野富太郎は「Makino」、フランシェとサヴァティエは省略され「Franch. et Sav.」と表記しています。

また、フランシェとサヴァティエは、研究に協力した人物の名前も学名に用いています。これを献名といいます。

・ミニパネル（以下全文）

「新種」の発表ではそのタイプ（基準）標本を指定します。神奈川県・横須賀は、多くのタイプ標本の採集地（タイプ産地）となっています。江戸時代の外国人研究者から現代の『神奈川県植物誌』調査まで、この地域が長い植物研究史の舞台であったことがわかります。

・展示資料

植物標本9点：アカネスミレ、ワダン、イワボタン、タカネマスクサ、ジンムジカナワラビ、ヤクシワダン、ミウラハイホラゴケ、イヨカズラ、ナンテンハギ（い



4 身近な春の植物



コラム 新種を発表するには？

ずれも横須賀はじめ三浦半島がタイプ産地の植物)

区画⑦：コラム 杉田のスギ

・パネル全文

横浜市磯子区杉田にある東漸寺境内に、1943 年まで生育していた杉の巨木の断面標本です。材の中心が腐朽して欠落していますが、320 年ほどの樹齢だったと考えられます。おそらく 17 世紀初頭から 20 世紀半ばまで、生育していた植物の証拠標本です。

「杉田」付近は、16 世紀はじめには「杉田の浦」と呼ばれ、大木の林立する杉の産地であったとされます。展示している「杉田のスギ」は、「杉田の浦」頃の大木ではないものの、その最後の生き残りと考えられます。「杉田のスギ」が生育していた頃までの杉田一帯は、現在の国道 16 号線辺りに海岸線が広がっていました。遠浅の海岸にそびえる杉の大木は、現在にない景観だったことが想像されます。

・展示資料

植物標本 1 点：スギ（神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵）



コラム 杉田のスギ

イ 企画展示②

「浦賀からやってきた資料たち」

享保 5 年（1720）、西浦賀村に設置された浦賀奉行所の 300 周年を記念して実施した展示。浦賀奉行所の歴史的な役割や東・西浦賀村の歴史が窺える史料を展示した。あわせて、近年本市教育委員会生涯学習課が実施した浦賀奉行所（浦賀役所）発掘の最新成果を展示した。

担当：藤井

開催場所

本館特別展示室

開催期間・見学者数

5-(1)-アを参照

関連事業

展示解説（5-(2)-ウを参照）

展示内容

以下、コーナー毎にパネル全文と展示資料一覧を掲載

はじめに

・パネル（以下全文）

享保 5 年（1720）12 月、相模国三浦郡西浦賀村（現在の横須賀市西浦賀）の地に江戸幕府の出先機関である「浦賀奉行所」が設置されました。令和 2 年（2020）は、この浦賀奉行所開設から 300 周年という記念すべき年に当たります。

そこで本展示では、浦賀奉行所の存在を背景として栄えた江戸時代の浦賀の様子や明治 30 年（1897）に創立された浦賀船渠株式会社（のちに浦賀重工業株式会社、住友重機械工業株式会社浦賀工場）に関する歴史的資料など、浦賀地域ゆかりの貴重な資料を展示します。また、近年、横須賀市教育委員会により実施された「浦賀奉行所跡地」発掘調査の最新の成果を展示します。

なお、本展示にあたっては歴史的に貴重な資料を展示するだけでなく、歴史の舞台となった場所が現在どのような景色となっているのか写真を展示しています。本展示が地域の歴史に関心を持つきっかけとなるとともに、歴史的資料を後世に伝え遺していくことの大切さに触れていただく機会になれば幸いです。

1. 江戸時代の浦賀

（1）浦賀の発展

・パネル（以下全文）

浦賀は江戸湾の入口に位置し、船の碇泊に最適な天然の良港でありました。16世紀半ばには戦国大名北条氏の支城が築かれて水軍の拠点となったことを契機に発展したといわれています。天正18年(1590)には徳川家康の領地となり、文録3年(1594)の検地によって高請されて、近世の村としての「浦賀村」が成立しました。

その後、元禄5年(1692)6月には、浦賀村は海を挟んで東岸の東浦賀村と西岸の西浦賀村との2ヶ村に分かれました。浦賀村分村の背景には、漁業に依存する湊町である東浦賀と、農業と林業を生業とする西浦賀との地理的な条件や生業の違いがあったとされています。その後、明治3年(1870)に再び合併して浦賀村となるまで、東・西に分かれた村運営が行われていました。

なお、東浦賀村では、運上金の上納や港の灯台である燈明堂の維持管理費用を負担する代わりに、干鰯売買を独占的に行うことを認められていました。

・展示資料

浦賀城発掘調査報告書、干鰯(レプリカ)、干鰯絵葉書、「山川見立相撲 相模浦賀」、浦賀および燈明堂に関する古文書、燈明堂発掘の調査報告書、「綿圖要務」(写真パネル)

(2) 浦賀奉行所の成立と役割

・パネル(以下全文)

享保5年(1720)12月、下田番所(現静岡県下田市)の廃止(移転)に伴って、西浦賀村の地に浦賀奉行所が設置されました。浦賀奉行所とは、江戸へ出入りする船舶を検査する「海の関所」でした。そのほか浦賀奉行所では、領地となる村々(役知・預所)の支配運

営を行うことや、海から侵入する敵から江戸を守る「海防の拠点」としての役割をも果たしていました。浦賀奉行所が設置された当初は、各地から江戸に出入する船舶を検査し、江戸に入って来る荷物を一括して把握することなど、経済的な役割が重視されていました。ところが19世紀に入り、たびたび異国船が来航するようになると、江戸湾の入口に位置する浦賀奉行所の軍事的重要性が増していきました。文政元年(1818)5月のイギリス商船ブラザース号の浦賀来航以降、浦賀奉行所の役人たちはたびたび異国船の対応、すなわち海防の最前線で活躍することになります。以後、浦賀奉行所では、洋式軍艦「鳳凰丸」の建造や幕府海軍の創設など、日本の近代化に重要な役割を果たす人材を多く輩出しました。

・展示資料

浦賀村絵図(市指定重要文化財)など浦賀ゆかりの古文書、「海軍御用留」(写真パネル)

2. 近代造船の町・浦賀

・パネル(以下全文)

慶応4年(1868)閏4月11日、明治維新により浦賀奉行所は新政府の役人(佐賀藩士)に引き渡されました。ここに享保5年(1720)に開設された浦賀奉行所の歴史は終わりを告げます。その後、慶応元年(1865)に設立された横須賀製鉄所の系譜を引く、横須賀造船所(横須賀海軍工廠)の存在により海防や国内貿易の重要拠点としての役割は次第に横須賀港に移り、浦賀の位置は相対的に低下していきました。しかし、明治30年(1897)6月に浦賀船渠株式会社(以下、浦賀船渠)が創立され、明治33年(1900)1月に操業が開始されると経営状況に紆余曲折はあるものの浦



展示入口



江戸時代の浦賀(1)

賀は造船の町として活況を呈するようになりました。それは、船舶が修理のために入渠すると、その乗組員が上陸して遊廓や料理店を利用するために浦賀船渠の入渠船の多寡が町の景気に直結するほどでした。なお、明治32年(1899)に建造された第1号ドックは現在では国内に2基(いま一つは西浦賀の川間ドック)しか存在しない歴史的に貴重なれんが造りのドックとなっています。

・展示資料

石井コレクション(市指定重要文化財)、浦賀ドック貴重写真(写真パネル)、戦前の浦賀の様子を窺い知ることの出来る絵葉書、浦賀ドックパンフレット、『浦賀船渠株式会社六十年史』

3. 引揚港としての浦賀港

・パネル(以下全文)

昭和20年(1945)8月の太平洋戦争終戦時には、660万人(陸海軍人330万人、民間人330万人)ほどの日本人が海外に取り残されていました。そこで、連合国軍最高司令部総司令部軍政下の日本政府は、浦賀港を含む全国10ヶ所(のちに12ヶ所)を引揚上陸港として指定し、海外引揚(復員)者(以下、引揚者)の受け入れを行うこととなります。浦賀港では主に南方諸地域、米国、台湾、中国南部からの引揚者の受け入れを行いました。浦賀港が引揚港に指定された背景には、旧陸海軍施設が多く所在しており、引揚者の一時収容地の確保に便利であったことなどが挙げられます。しかしながら、浦賀港だけでは引揚者を受け入れきれないため、同港の南に位置する久里浜の旧海軍工作学校跡地が活用され、引揚事業の中心を担いました。その結果、およそ56万人もの在留邦人を受け入れま

したが、そのなかには傷病のために郷里に帰ることなく上陸前後に亡くなってしまった人もいました。とりわけ、昭和21年(1946)4月には中国南部からの引揚船内でコレラが発生し、多数の死者を出しました。

・展示資料

引揚証明書、引揚船の写真、浦賀引揚港の碑(写真パネル)、陸軍棧橋(写真パネル)

4. 浦賀の美

・パネル(以下全文)

浦賀湊は、大形の構造船が岸近くまで入れる天然の良港です。江戸時代初期、綿作りが盛んになった関西から、栽培に効果的な肥料とされた干鰯やメ粕を求めて多くの船が浦賀湊へ来るようになります。東浦賀では、こうした需要に応えるかたちで干鰯問屋がたちはじめ、隆盛を誇りました。裕福となった商家は、財力の証として贅沢な品々を手に入れました。当時、輸出が振るわなくなったことから、国内向けの製品を生産し始めた有田磁器もそのひとつです。しかし、江戸時代中期に入ると江戸に廻る荷が増え、最盛期ほどの勢いはなくなりました。

・展示資料

旧名主家伝来の古今雛、東浦賀村干鰯問屋旧蔵の時絵重箱、有田染付芙蓉手皿、色絵小鉢、色絵四方皿、方位磁針、簪、小箱、根付。

5. 浦賀奉行所発掘の成果

・パネル(以下全文)

第1次調査(2018年5月21日～6月6日)は主に浦賀奉行所を構成する施設のうち、奉行所役人が日常的な執務を行った「浦賀役所」の遺構面確認を目的とした調査で、発掘面積は98㎡です。浦賀役所の石



江戸時代の浦賀(2)



浦賀ドック関連資料

敷き遺構面や礎石、昭和前期の浦賀船渠(株)工員宿舍跡などが確認され、江戸時代の瓦や陶磁器類、昭和前期の煉瓦などが出土しました。第2次調査(2019年9月2日～11月29日)は主に浦賀役所の遺構確認を目的とした調査で、発掘面積は383㎡です。浦賀奉行所の開設期〔第Ⅰ期〕の造成面(標高約4.27m)を確認したほか、文政4年(1821)〔第Ⅱ期〕の炊出所竈跡と白洲の砂礫敷き、建物礎石など、安政2年(1855)遺構〔第Ⅲ期〕の素掘りの西側堀跡と柱穴列、建物礎石、石敷き遺構面などを確認しました。また、敷地正面の石垣を観察すると、第Ⅰ期の正面石垣と思われる部分や、炊出し所の石橋跡、埋もれた排水用石組み側溝の出口3か所の存在が確認された。奉行所跡

に伴う出土遺物としては主に18世紀中頃から19世紀中頃(幕末期前後)の土器・陶磁器類・銅銭(寛永通宝)、鉄釘、瓦(軒丸瓦・丸瓦・軒棧瓦、目地漆喰塗籠瓦)などが出土しました。

・展示資料

浦賀役所時代の出土遺物(軒棧瓦、棧瓦、銅銭、角釘、羽釜の風炉、灯明皿、硯、炊出し所竈の焼けた粘土など)、浦賀船渠(株)工員宿舍時代の出土遺物(アス煉瓦、赤煉瓦、モルタル煉瓦、浦賀船渠診療所の薬瓶、大日本麦酒株式会社の瓶、統制陶器の食器類)。

(本章のキャプションについては、生涯学習課中三川昇氏にご執筆頂いた)



浦賀絵図(本市指定重要文化財)



引揚港としての浦賀港



近代造船の町・浦賀



浦賀の美(旧家伝来の古今雜)



浦賀奉行所発掘の最新成果



担当学芸員による展示解説



浦賀役所跡からの出土品 (1)



浦賀役所跡からの出土品 (2)

(2) 特別展示

「足跡化石から探る太古の世界—恐竜からナウマンゾウまで—」

新型コロナウイルス感染症拡大のため次年度以降に延期.

担当：柴田

2 研究発表会

(1) みんなの理科フェスティバル

「第4回みんなの理科フェスティバル」

「こどもからおとなまで、みんなが『理科』でつながる」をテーマに、研究発表会・ワークショップ・講演会などに関する様々な出展者との調整を行ってきたが、1月8日に発令された緊急事態宣言に伴う横須賀市の施設休止方針に従い、中止となった（開催予定日：1月23日・24日）。

担当：内船

3 調査等出張

(1) 調査出張

ア 出張①

「萩藩関係文書調査および近代史関連史跡の調査」

本出張では、幕末の三浦半島において江戸内海の海防を担当し、のちに明治維新の急先鋒となった「萩藩（山口藩）」の関係文書を中心に山口県・広島県所在の古文書から三浦半島に関する古文書調査および史跡調査を行った。また、明治時代以降において横須賀港同様に大日本帝国海軍の一大拠点となった「呉港」や太平洋戦争終戦にともなって浦賀港と同様に引揚港となった「仙崎港」など、代史に関する史跡や博物館を訪問し、所在史料の把握や展示技術について視察を行った。なお、本出張により得た成果（知見）の一部は、企画展「浦賀からやってきた資料たち」（2020年10月31日～2021年2月28日、3月19日～21日）に活かされた。

担当：藤井

日程・調査地

- 8月25日 広島県呉市（大和ミュージアム、海上自衛隊呉史料館）
- 8月26日 広島県広島市（広島県立文書館、広島市郷土資料館）
- 8月27日 山口県山口市（山口県文書館、山口県立

山口博物館）

- 8月28日 山口県長門市・萩市（仙崎港・萩博物館）
- 8月29日 山口県萩市（萩反射炉・恵美須ヶ鼻造船所跡）



呉市海事歴史科学館



広島県立文書館



木戸（孝允）公恩徳碑



海外引揚げ上陸地（仙崎港）



萩城跡（文久3年（1863）4月，藩庁を山口へ移転）



恵美須ヶ鼻造船所跡（安政3年（1856），萩藩初の洋式木造帆走軍艦「丙辰丸」建造）



高札場

(2) 他館視察出張

ア 出張①

「北陸地方等の博物館施設における視察」

博物館のリニューアルに向けた検討を具体化するため、自然系を中心とした様々な規模・館種の博物館を視察した。各視察先には、リニューアルに関するヒアリングのほか、リニューアルから数年～十数年が経過している館では改善部分に対するその後の評価、さらには教育的な機能面からの評価について、あらかじめ依頼状とともに質問を送付したのち、訪問した。

なお、滋賀県立琵琶湖博物館については、柴田・瀬川・藤井の3名とともに視察を行った。また、視察において撮影した画像やヒアリングを行った内容については、各視察先に配慮し詳細を省略する。

担当：内船

1 滋賀県立琵琶湖博物館 [9月15日]

1996年開館。滋賀県琵琶湖環境部の所管。第1期(2016年完了)から2年おきに第3期(2020年10月オープン)まで同館では初となるリニューアル。

2 福井市自然史博物館 [9月16日]

1952年に「福井市立郷土博物館」として開館。現在の所管は商工労働部観光文化局。1970年に「市立郷土自然科学博物館」へ改称、1981年に展示全面リニューアル、1992年には新館増設に伴い「市自然史博物館」に改称。2008年3月に新館常設展示室の一部をリニューアル。中村幸世学芸員および梅村信哉学芸員にお話をうかがった。

3 福井県立恐竜博物館 [9月16日]

2000年開館。近年は年間来館者が90万人前後を推移。開館20年の中で小規模のリニューアルを数回実施。中村博明室長および湯川弘一研究員にお話をうかがった。

4 石川県立歴史博物館(いしかわ赤レンガミュージアム) [9月17日]

1986年開館。2013年から約2年間の休館を経て、2015年に全面リニューアル。リニューアルに際して(公財)藩老本多蔵品館の移設を受入れ、2館を統合した通称として「赤レンガミュージアム」を用いる。粟知之課長および濱岡伸也学芸員にお話をうかがった。

5 金沢21世紀美術館(まるびい) [9月17日]

2004年オープン。所管は金沢市文化スポーツ局文化政策課、運営は(公財)金沢芸術創造財団。展示室の大部分は様々なサイズ・形状の「入れ物」として機能していることから展示リニューアルを必要

としないが、ワークショップルームなど多様な教育活動を行う場には工夫が凝らされる。木村健エドゥケーターおよび森絵里花プログラム・コーディネーターにお話をうかがった。

6 富山市科学博物館 [9月18日]

1979年に「富山市科学文化センター」として開館。理工展示は3回(1985・1993・1999年)、自然史展示は1回(1992年)のリニューアルののち、2007年に全館リニューアル。これにより自然史展示と理工展示を一体化して現在の名称に変更。太田道入学芸員にお話をうかがった。

7 長野県信濃美術館 [9月18日]

1966年開館。2006年から指定管理者制度を導入。2019年に別館をリニューアル、2021年には本館がリニューアルオープン予定(本館リニューアル期間中に視察訪問させていただいた)。田中正史学芸課長および青山由貴枝学芸専門員にお話をうかがった。



1 滋賀県立琵琶湖博物館



2 福井市自然史博物館



3 福井県立恐竜博物館



4 石川県立歴史博物館
(いしかわ赤レンガミュージアム)



5 金沢 21 世紀美術館 (まるびい)



6 富山市科学博物館



7 長野県信濃美術館

イ 出張②

「滋賀県立琵琶湖博物館、蒲郡市生命の海科学館、竹島水族館、豊橋市自然史博物館の視察」

全国の博物館の近年のリニューアル状況や博物館活動を調査するため、滋賀県立琵琶湖博物館、蒲郡市生命の海科学館、竹島水族館、豊橋市自然史博物館を視察した。琵琶湖博物館は内船、瀬川、藤井、柴田の4人、それ以外の3館は柴田が視察した。

担当：柴田

1 滋賀県立琵琶湖博物館 [9月15日]

滋賀県立琵琶湖博物館は2012年から2020年にかけて3期に分けたリニューアルを実施中であった。2016年にリニューアルが完了したC展示室「湖のいまと私たち～暮らしとつながる自然～」について、展示室リニューアルの主担当であった亀田学芸員（鳥類学担当）に案内していただいた。琵琶湖についての基本情報から自然環境、人の暮らしなど、琵琶湖を総合的に紹介する展示ストーリーが特徴的であった。また、亀田、里口（地質学担当）、渡部（民俗学担当）の3人の学芸員から、リニューアルの経過、必要性、コンセプトなどについてお話を伺った。

2 蒲郡市生命の海科学館 [9月16日]

蒲郡市生命の海科学館は、海の誕生、生命の初期進化、海を舞台にした古生物の進化などをテーマとした科学館で、全3階の展示フロアからなる。2012年に1階「蒲郡情報ネットワークセンター」が廃止され、2階と3階の展示室へいざなう空間としてリニューアルされた。リニューアルされた1階展示室では、体験型展示や子ども向け展示が多く設置されていた。リニューアルの経過や方法、2015

年に市長部局から教育委員会の所管となった経緯などについて、山中館長と森学芸員からお話を伺った。

3 竹島水族館 [9月17日]

来館者の減少から復活を遂げた小規模な水族館で、手書きで自作されたユーモアのある解説パネルが特徴的であった。

4 豊橋市自然史博物館 [9月17日]

豊橋自然史博物館では長期的な計画の下、リニューアルが進められている。1995年に郷土の自然展示室、2004年に古生代展示室、2008年に中生代展示室、2016年に新生代展示室をリニューアルしている。リニューアルされた展示室の解説パネルには、上段に大人向けの解説、下段に子ども向けの4コマ漫画があり、様々な年齢の来館者に対応されていることが印象的であった。近年の博物館活動や課題について、一田学芸員（古生物学担当）からお話を伺った。



滋賀県立琵琶湖博物館のC展示室「湖のいまと私たち～暮らしとつながる自然～」の「1 琵琶湖へ出かけよう」。パネルや映像で琵琶湖の基礎的情報を紹介。



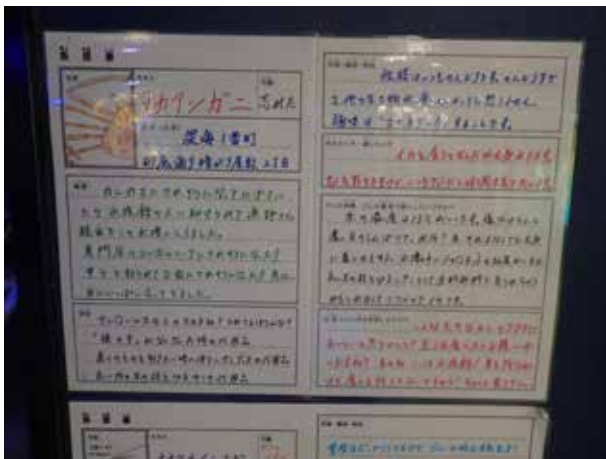
滋賀県立琵琶湖博物館のC展示室「2 ヨシ原に入ってみよう」。人とヨシとの関わりを紹介。自然科学と人文科学の内容が融合された展示の一例。



蒲郡市生命の海科学館の展示の目玉である
首長竜タラソメドン。



蒲郡市生命の海科学館の1階展示室。
体験型の展示が多く導入されている。



竹島水族館のタカアシガニの解説パネル。
解説パネルはすべてこの形式で統一されている。



竹島水族館館内の様子。



豊橋自然史博物館の導入展示。
ティラノサウルスとトリケラトプスの恐竜骨格標本がある。



豊橋自然史博物館の古生代展示室。
写真左の解説パネル下段に4コマ漫画がある。

ウ 出張③

「福井県立こども歴史文化館」

全国の博物館の近年のリニューアル状況や博物館活動を調査するため、自然・人文の学芸員が視察を行った。総合博物館である滋賀県立琵琶湖博物館は内船、柴田、瀬川、藤井で視察をした。瀬川は、福井県立こども歴史文化館を単独で視察し、一宮市博物館は藤井と共に視察した。ここでは、瀬川が単独で視察した福井県立こども歴史文化館について聞き取りした内容を中心に述べる。

担当：瀬川

1 基本理念

福井の将来を担う未来人である子どもたちに、福井にゆかりのある先人たちが活躍する姿や生き方をいきいきと伝えるため、福井の歴史や先人たち、白川文字学などを楽しく学ぶ「福井県立こども歴史文化館」を新たに開設し、子どもたちが、自分たちのふるさとの歴史と文化を感動・発見をもって学び、継承できる拠点としている。

2 他館とのすみわけ

県立の子ども向けの施設として、福井県児童科学館（エンゼルランドふくい）、福井県こども家族館等があるが、福井の歴史上の人物を学ぶ施設ではない。また、全世代対象の歴史を学ぶ施設として、福井県立歴史博物館があるが、子どもが人物を中心に学ぶ施設ではない。

3 沿革

- 平成 19 年 5 月 県庁内で基本計画策定開始
- 9 月 「福井子ども歴史文化館検討結果」策定
- 1 1 月 福井子ども歴史文化館展示内容検討専門委員会発足
- 平成 20 年 6 月 福井子ども歴史文化館開館準備委員会発足
- 8 月 展示基本設計の完成
- 1 2 月 旧県立図書館の改修工事着工
- 平成 21 年 3 月 展示実施設計の完成
- 4 月 教育庁生涯学習課に子ども歴史文化館開館準備グループが発足
- 5 月 展示工事請負業者決定・着工
- 1 0 月 「福井県立こども歴史文化館の設置および管理に関する条例」を策定
- 1 1 月 福井県立こども歴史文化館 開館

4 専任職員数とその必要性

子どもを対象とした社会教育施設と位置づけられていることから、子どもに、正しく、わかりやすくふるさとの歴史や文化を伝える責任がある。そのためには、福井県の歴史や文化および展示に専門的知識を持つ学芸員、学校教育に専門的知識を持つ教員、その他のスタッフが不可欠との考えで、専任の職員を配置している。

- ・館長 1 名 館の総括
- ・学芸員 3 名 人物に関する学芸活動
- ・教員 1 名 教育普及事業の企画・指導
- ・司書 1 名 教育普及事業の企画・指導
- ・事務職員 1 名 事務全般、施設管理
- ・嘱託職員 3 名 展示の企画運営の補助
団体来館者の対応等
- ・アルバイト職員
- ・警備・清掃・受付（業務委託）

5 所感

福井県立こども歴史文化館の沿革を見ると、急ピッチで計画から開館まで進んだことがわかる。今回の視察に対応いただいた学芸員からのお話でもその様子を伺うことができた。通常の半分以下の年月で開館したという事実には驚いたとともに、多くの苦勞や試行錯誤があったことをお聞きした。対応いただいた学芸員からも、決してこのスケジュールを真似してはいけない旨をご教示いただいた。福井にゆかりのある人物を中心とした博物館であるから辛うじて可能だったのであり、総合博物館では不可能だと思われる。子ども向けの展示については、実際の展示を観ながら「ねらい・効果・反省点」などをお聞きした。特に印象に残った言葉は「大人目線の子どもの向け」では駄目だというものである。仮に当館のリニューアル計画が具体的に動きだしたならば、幼児教育の専門家や子どもたちの意見を取り入れる必要がある。



福井県立こども歴史文化館 外観



展示室内の案内図
先人の顔と場所がリンクするようになっている



解説パネル
教科書に載っていない先人も紹介している



解説パネルと展示資料
実物資料を展示している人物もある



漢字の成り立ちを説明している展示
白川文字学を楽しく学べる工夫がなされている



順路に関係なく見学できる工夫
ルーレットを回して見学する時代を決めクイズに答える

エ 出張④

「リニューアル調査」

全国の博物館の近年のリニューアル状況や博物館活動を調査するため、滋賀県立琵琶湖博物館、大垣市奥の細道むすびの地記念館、一宮市博物館を視察した。なお、県立琵琶湖博物館は柴田、内船、瀬川、藤井の4人、大垣市奥の細道むすびの地記念館は藤井単独、一宮市博物館は瀬川、藤井の2人で視察した。本稿では報告の重複を避けるため、藤井単独で視察した大垣市奥の細道むすびの地記念館および瀬川、藤井で視察した一宮市博物館の視察概要について記す。

担当：藤井

1 大垣市奥の細道むすびの地記念館

大垣市奥の細道むすびの地記念館（岐阜県大垣市船町2-26-1, 入館料一般300円）は、大垣市教育委員会文化振興課管下の博物館類似施設である。館のコンセプトおよび目的は、コンセプトおよび目的：松尾芭蕉（『奥の細道』）および大垣の偉人5名（幕末の人物）について紹介。松尾芭蕉および幕末における大垣の偉人5名に関する資料を収集し、保管・展示（情報公開）および専門研究を行うことを目的としている。平成24年（2012）開館の比較的新しい施設である。職員は常勤学芸員2名（日本中世史1名、日本近世史1名）、非常勤職員2名（事務）、収蔵資料は2008点（うち寄託265点）。当日は山崎学芸員（歴史学・日本近世史）に開館の経過、展示室や収蔵庫（バックヤード）の設備、展示のコンセプト・工夫などについてお話を伺った。

2 一宮市博物館

一宮市博物館（愛知県一宮市大和町妙興寺2390, 入館料一般300円）は、一宮市教育委員会管下の登録博物館である。常設展示のコンセプトは、「沖積平野という自然環境や時代によって変化する社会的要因の中で、人々がどのように生活し、文化を育んできたのかに視点を当てる。さらに他地域との交流や比較という目線を取り入れることにより、当地の地域的特質を明らかにする」というものである。昭和62年（1987）11月に開館し、平成26年（2014）10月にリニューアル開館（平成25年（2013）3月11日～平成26年（2014）10月17日まで臨時休館）。当日は成河学芸員に展示室をご案内頂き、リニューアルのコンセプトや工夫についてお話を伺った。展示室視察後は、リニューアル準備から完成に至る流れについてお話を伺った。



奥の細道むすびの地記念館（外観）



奥の細道むすびの地記念館展示室。
デジタルとアナログのバランスを意識した展示の一例。



一宮市博物館展示室。縄文～近現代史まで概説的に通史を学べるような展示構成。



一宮市博物館展示室。人文分野（民俗学）と自然分野の融合展示一例。

4 ニュース

(1) 臨時休館にともなう家庭学習支援事業①

「おうちで博物館『横須賀市博ムービーチャンネル』」

動画投稿サイト YouTube を活用し、三浦半島の自然や歴史、展示解説などの動画を紹介した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響下で、自宅で児童生徒が学習できることを目指した。

担当：柴田

動画一覧（令和2年度公開）

1. 天神島臨海自然教育園 ～ハマオモトとスカシウリ編～
2. 天神島臨海自然教育園 ～満潮と干潮をくらべてみよう～
3. 干潟の生き物ダイジェスト
4. メダカのたんじょう
5. トビハゼのたんじょう
6. 地層：深海から生まれた三浦半島
7. 横須賀のナウマンゾウ
8. カブトムシの幼虫（およそ3分はくぶつかん vol.001）
9. ペリー来航～近代日本外交の始まり～
10. 1860年遣米使節団の役割～近代化の進む世界を知る～
11. カブトムシの変化（およそ3分はくぶつかん vol.002）
12. おうちでできる！ウミウシ拡大模型づくり（前編）
13. おうちでできる！ウミウシ拡大模型づくり（後編）
14. むかしの
15. これなーに？①
16. これなーに？②
17. これなーに？③
18. これなーに？④
19. ハマオモトの花に訪れる生き物たち
20. PCR法ってどんな方法？
21. カワトンボの仲間（およそ3分はくぶつかん vol.003）
22. 地震と土地の変化～三浦半島～
23. チャイロスズメバチ（およそ3分はくぶつかん vol.004）
24. 江戸時代の妖怪 アマビエの記事をよむ
25. 横須賀製鉄所首長ヴェルニーさんの家 Maison de Monsieur Verny
26. 横須賀製鉄所副首長ティボディエさんの家 Maison de Monsieur Thibaudier
27. むかしの写真「絵葉書にみる横須賀の関東大震災被害」横須賀市自然・人文博物館コレクション
28. はくぶつかんクイズ「かいがんでひろったよ」
29. 横須賀市自然・人文博物館
30. タンポポの花びらは何まい？
31. はくぶつかんクイズ「かいがんでひろったよ！その2」
32. ウシ・牛・丑年



おうちで博物館「横須賀市博ムービーチャンネル」。
「番号は動画一覧」の番号に対応する。

(2) 臨時休館にともなう家庭学習支援事業②

『『おうちで博物館ぬりえ+ (プラス)』の開催』

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため前年度（令和2年2月22日）から継続された臨時休館において、家庭や自宅での学習活動を支援するため博物館ホームページなどでぬりえの図案を配布した。図案には博物館や三浦半島の自然・歴史に関するものを選び、配布の際には学芸員による図案の解説を付した。「ぬりえ+ (プラス)」は、ぬりえ作品の募集・展示・表彰事業であり、5月28日から8月29日にわたって作品の募集を行い、9月26日から11月29日にわたって作品を展示し、11月1日に表彰式を実施した。応募作品は4部門（ちびっこ部門、ていがかねん部門、高学年部門、だれでも部門）計224点、表彰は「館長賞（各部門3点）」、「学芸員賞（各部門5点）」、「抽選賞（各部門9点）」に対して行った（p.28～30に各部門の館長賞および学芸員賞の作品を掲載）。

担当：内船



ぬりえ展示①



ぬりえ展示②



ぬりえ表彰式①



ぬりえ表彰式②

《ぬりえ+ (プラス) 受賞作品：ちびっこ部門》

◎館長賞



ちびっこ部門	「あんこうひかる先生」
山野 流星	横浜箕輪小学校 5才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、紫色の魚です。長いアンテナが面白いです。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「あんこうひかる先生」
山田 靖子	横浜箕輪小学校 5才


海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、色とりどりの魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「あんこうひかる先生」
藤堂 海志	横浜箕輪小学校 4才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、大きな魚です。海は青いので、魚の色が映えます。

◎学芸員賞



ちびっこ部門	「あんこうひかる先生」
余瀬 陽美	横浜箕輪小学校 6才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、黄色い魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「タカノリ」
大橋 徹司	横浜箕輪小学校 3才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、色とりどりの魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「タカノリ」
菊地 理功	横浜箕輪小学校 6才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、オレンジ色の魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「あんこうひかる先生」
菅谷 旭陽	横浜箕輪小学校 6才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、黄色い魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ちびっこ部門	「榎野龍ノゴ」
山口 祐高	横浜箕輪小学校 6才

海の動物園に行くと色々な魚が泳いでいます。その中でも一番好きな魚は、船です。海は青いので、船の色が映えます。

《ぬりえ+ (プラス) 受賞作品：ていがくねん部門》

◎館長賞



ていがくねん部門	「はまゆりこさん」
愛江 桜	横浜箕輪小学校 7才

はまゆりこさんは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。



ていがくねん部門	「あふろぎハニアオスジザザ」
中山 翔高子	横浜箕輪小学校 7才

あふろぎハニアオスジザザは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。



ていがくねん部門	「はまゆりこさん」
長島 凛花	横浜箕輪小学校 8才

はまゆりこさんは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。

◎学芸員賞



ていがくねん部門	「はまゆりこさん」
影山 紗那	横浜箕輪小学校 7才

はまゆりこさんは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。



ていがくねん部門	「天神島マスコット」
村崎 文香	横浜箕輪小学校 6才

天神島マスコットは、きれいな魚です。海は青いので、魚の色が映えます。



ていがくねん部門	「あふろぎハニアオスジザザ」
馬庭 晴瑞	横浜箕輪小学校 7才

あふろぎハニアオスジザザは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。



ていがくねん部門	「あふろぎハニアオスジザザ」
早川 実希	横浜箕輪小学校 7才

あふろぎハニアオスジザザは、きれいな花です。海は青いので、花の色が映えます。

《ぬりえ+ (プラス) 受賞作品：ていがくねん部門 (続き)》

◎学芸員賞 (続き)

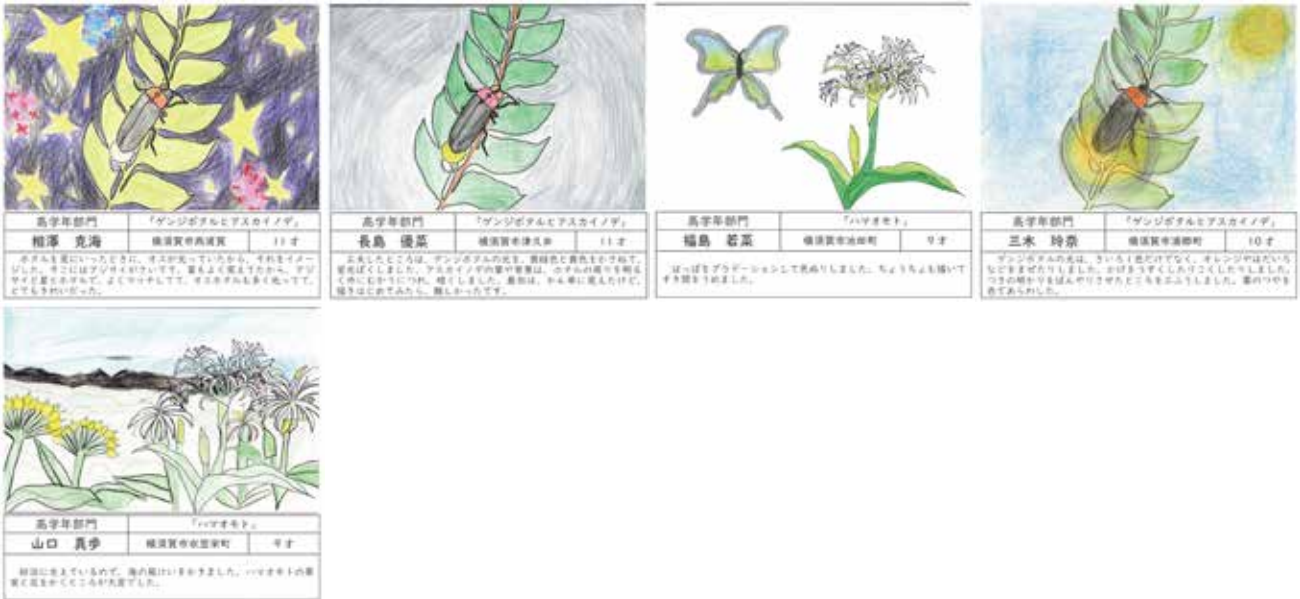


《ぬりえ+ (プラス) 受賞作品：高学年部門》

◎館長賞



◎学芸員賞



(次ページへ続く)

《ぬりえ+ (プラス) 受賞作品：だれでも部門》

◎館長賞



だれでも部門	「山海見立精選 相模湾賞」
村崎 由穂	横浜賀寿町の古町 33才

横須賀市をテーマに、ゴッホのスタイルで描いた。横須賀の街並みと、船の往来が印象的。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「ペリー」
岡田 邦夫	横浜賀寿町 75才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「ペリー」
福岡 貞人	横浜賀寿町 83才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。

◎学芸員賞



だれでも部門	「スペインマンジュウ宮二」
河川 記子	横浜賀寿町 37才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「ペリー」
榎本 史花	横浜賀寿町 5才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「スペインマンジュウ宮二」
三木 滄太	横浜賀寿町 7才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「横浜賀寿町 人文博物館」
川崎 真由美	横浜賀寿町 47才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。



だれでも部門	「山海見立精選 相模湾賞」
原川 典子	横浜賀寿町 69才

横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。横須賀の歴史を伝える。

《ぬりえ+ (プラス) 募集チラシ (自主制作)》



募集チラシ①



募集チラシ②

《チラシ》



企画展示①

「ヨコスケンセーよこすかの歴史を彩る植物たち」



企画展示②

「浦賀からやってきた資料たち」



みんなの理科フェスティバル

※開催中止

博物館事業概要

令和 2 年度（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

臨時休館日は本誌 p.55.

5 展示教育普及事業

(1) 主催事業①（展示）

ア 特別展示・企画展示

タイトル	展示種別	担当	開催期間	見学者数	備 考
足跡化石から探る太古の世界 —恐竜からナウマンゾウまで—	特別展示	柴田	延期	—	新型コロナウイルス感染症 拡大のため次年度に延期.
ヨコスケンセ よこすかの歴史を彩る植物たち	企画展示	山本	6月2日～9月27日 [102日間]	10,988人	詳細は本誌 p.3～11.
浦賀からやってきた資料たち	企画展示	瀬川・藤井	10月31日～3年1月11日, 3年3月19～21日 [60日間]	7,776人	詳細は本誌 p.11～15.

計 2 件：延開催日数 162 日，延見学者数 18,764 人

イ 常設展示

(ア) 展示新設

ミニ・トピック展示コーナー

自然館中3階「珍しい展示」コーナー手前の踊り場スペースに架台を設置し、ドイツ型標本箱（中サイズ）を1箱、展示できるようにした。当面は博物館研究報告（自然）67号掲載の「ニセモンキマメゲンゴロウ」のテーマでの展示とした。5月31日完成。（担当：内船）

交流ボード「ようこそ博物館へ！」

自然館2階。「三浦半島をとりまく地形」奥の壁面に掲示ボードを設置し、博物館や学芸員がメディアに取り上げられた際の記事の切り抜きや、学芸員の研究成果、来館者から博物館へのメッセージなどを展示する、コミュニケーション・ツールとした。6月8日完成。（担当：内船）

生体展示コーナー

自然館2階。受付前に架台を設置し、博物館周辺や市内等で採集した動植物を一時的に飼育展示し、解説を付した。8月26日設置。（担当：山本・内船）

(イ) 展示更新

生体展示コーナー

自然館2階。昆虫類の動的な展示として5種約10個体を入れ替えながら展示した。年間。（担当：内船）

古民家

人文館2階古民家。佐島の年中行事と生業暦などをまとめた表と佐島の漁業域、場所の呼び名を記した地図を新しく追加した。12月15日設置。（担当：瀬川）

ペリー来航から始まった近代外交

人文館2階。マシュー・カルブレイス・ペリー提督来航に関する展示パネルを3枚撤去し、新たに製作したものを設置した。12月16日設置。（担当：藤井）

馬堀自然教育園

自然紹介サイン更新。老朽化した上の池付近のサイン1件を撤去し、新しいサインを寄り添う大木「ムクノキとシラカシ」付近に設置した。12月22日設置。（担当：柴田）

ヴェルニー記念館

横須賀造船所付属巖倉出身新倉定吉氏旧蔵の机を展示、3年1月29日。覗き展示ケースの移動と展示品の入れ替え、3年2月2日。（担当：菊地・亀井）

植物

自然館1階。季節の植物コーナーを更新、生態写真を30点追加した。3年3月7日完成。（担当：山本）



5-(1)-イ-(ア) ミニ・トピック展示コーナー



5-(1)-イ-(ア) 交流ボード



5-(1)-イ-(イ) 生態展示コーナー



5-(1)-イ-(イ) ヴェルニー記念館
新倉定吉氏の机を展示



5-(1)-ウ-(ア) トピックス展示
「カブトムシを調べよう」



5-(1)-ウ-(ア) トピックス展示
「基礎から学ぼう昆虫学成果展」

ウ トピックス展示

(ア) 自然館

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備 考
初公開! 収蔵資料展 (哺乳類・鳥類)	萩原	6月2日～7月12日 [36日間]	3,345人	テン、ミミセンザンコウ、ポプキヤット、サイチョウ類の頭骨など、これまで展示の機会がなかった標本7点、写真資料2点を展示。
カブトムシを調べよう	内船	7月18日～9月20日 [56日間]	6,530人	「三浦半島カブトムシ移動調査」実施期間に合わせ、調査の概要や過去の成果の一部を紹介し、研究活動への理解を深めた。標本84種103点。当年度に開催した「基礎から学ぼう昆虫学」の参加者や講師が制作した標本・レポート・写真等を展示した。新たに今年度は学芸員によるコメントカードを追加した。
基礎から学ぼう昆虫学成果展	内船	9月26日～11月29日 [56日間]	6,828人	ウシの分類・系統やウシの品種に関するパネル、アフリカスイギュウの頭骨、ウシにちなんだ名の動植物の標本などを展示。
干支展示「ウシ・牛・丑年」	自然	12月5日～1月11日 [27日間]	3,256人	ウシの分類・系統やウシの品種に関するパネル、アフリカスイギュウの頭骨、ウシにちなんだ名の動植物の標本などを展示。
新着標本 2021	自然	3月9日～次年度へ継続 [20日間]	2,629人	ノウサギ、アオウミガメ、ノウサギについていたダニの他、植物、化石、昆虫標本など20点を展示。

計5件：延開催日数195日、延見学者数22,588人

※ 見学者数は当年度のみ計上

(イ) 人文館

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備 考
江戸時代の学び	藤井	6月2日～9月27日 [102日間]	10,988人	江戸時代の寺子屋で使用された往来物を展示した
湊町・ヴェルニー公園の歴史と遺産	菊地	10月10日～次年度へ継続 [95日間]	11,918人	かつて湊町と呼ばれたヴェルニー公園内の土地利用の変遷や歴史的建造物、出土遺物、戦艦陸奥の歴史資料などを総合的に展示紹介した。

計2件：延開催日数197日、延見学者22,906人

※ 見学者数は当年度のみ計上

エ 季節展示

令和2年度未実施

オ その他

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備 考
ぬりえ+ (プラス) 作品展示	内船	9月26日～11月29日 [56日間]	6,828人	詳細は本誌 p.27.
(横須賀市指定文化財 新指定記念) 幕末・明治初期の写真の大画面スライドショー	菊地	3年3月20日～次年度へ継続 [10日間]	1,510人	当館所蔵の「横須賀製鉄所製図工長マラング 家旧蔵資料」の横須賀市重要文化財指定を記念して、同資料に含まれる幕末・明治期の写真38点全てを大画面映像で展示した。

計2件：延開催日数66日、延見学者8,318人

※ 見学者数は当年度のみ計上



5-(1)-ウ-(イ) トピックス展示
江戸時代の学び



5-(1)-ウ-(イ) トピックス展示
湊町・ヴェルニー公園の歴史と遺産

(2) 主催事業② (学習会)

ア 博物館教室

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
そだててしらべる! カブトムシ	内船	5月9日, 7月11日	本館	中止	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。
「三浦半島の歴史」(全5回)	菊地・人文	6月3日～7月1日	本館・野外	中止	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。
「こども海洋教室」(全4回)	萩原	7月18日, 8月15日, 9月19日, 10月17日(各土曜)	本館・天神島臨海自然教育園	延46人	海水の密度・比重の実験, プランクトンの観察, 魚類標本作り, ウミウシ模型作りなど, 体験を通して海洋に関する学習を行った。
「基礎から学ぼう昆虫学」(全3回)	内船	7月19日・8月23日・9月13日	本館, 中央公園	延48人	協力: 三浦半島昆虫研究会。例年とは時期と内容を変更しての開催。講義・実技・フィールドワークを通じた体験的な学習を実施。学習成果を本館トピックス展示にて発表した。2日目には, 本館に隣接する中央公園でセミの抜け殻調査を実施した。
「三浦半島の自然誌」(全6回)	自然	11月11日～12月16日(毎水曜)	講堂	延76人	全6回。自然部門学芸員および外部講師が, それぞれの担当分野の視点から三浦半島の自然について講義した。
「三浦半島の民俗」(全2回)	瀬川	12月16日, 12月23日	横須賀市秋谷	中止	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。
横須賀ジオツアー(全4回)	柴田	3年2月13日, 2月20日, 3月6日, 3月20日(各土曜)	本館, 野外	中止	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。
「つくる・かざる植物標本」(全2回)	山本	3年2月7日・2月14日	講堂・中央公園	中止	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。
「はじめての古文書」(全1回)	藤井	3年3月28日	講堂	6人	新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しつつ, 江戸時代のくずし字の読み方などについて講義した。

当初計画9件中, 実施計4件: 延開催日数14日, 延参加者数176人

イ 自然観察会・野外学習

(ア) 自然観察会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
海藻入門	萩原	4月25日	天神島臨海自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
野比海岸の地層	柴田	5月17日	横須賀市野比	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
ホテルの観察①, ②	内船	①6月6日 ②6月13日	馬堀自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
ウミウシの観察	萩原	6月6日	天神島臨海自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
潮だまりの生き物	萩原	7月22日	天神島臨海自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
箱めがねで磯の生き物観察	萩原	8月5日	天神島臨海自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
夜の昆虫かんさつ①, ②	内船・山本	①8月7日 ②8月8日 各日17:00～20:30	天神島臨海自然教育園	①9人 ②14人	自然教育園が有する海岸の自然環境と博物館の調査活動とを体験する機会として実施した。夜間昆虫調査をテーマに観察会。明かりに集まる昆虫や夜の砂浜を徘徊する昆虫等を観察したほか, ハマオモトの訪花昆虫調査についても解説を行った。
シダとコケのテラリウム	山本	9月26日	馬堀自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
阿部倉周辺の地層と岩石	柴田	10月3日	阿部倉周辺	23人	三浦枕状溶岩, 衣笠断層がつくる地形, 阿部倉温泉の湯の花, 三浦層群豆子層と凝灰岩鍵層 Ok を観察した。協力: 三浦半島活断層調査会
森のさんぼとクリスマスクラフト	山本	12月5日	馬堀自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
トウキョウサンショウウオの観察	萩原	3年3月14日	馬堀自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画11件中, 実施計2件: 延開催日数3日, 延参加者数46人

(夏休み企画登録行事を除くと, 計1件: 延開催日数1日, 延べ参加者数23人)

(イ) 野外学習

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
近代化遺産ツアー中央地区	菊地	9月25日	上町・横須賀中央地区	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
ハレの日めぐり	瀬川	10月11日	横須賀市太田和	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
近代化遺産ツアー北地区	菊地	3年3月19日	船越・浦郷地区	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画3件中、実施計0件：延開催日数0日、延参加者数0人

ウ 展示解説・ガイドツアー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
企画展示解説「ヨコスケンセー横須賀の歴史を彩る植物たち」	自然	5月4日	特別展示室	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
特別展示解説「足跡化石から探る太古の世界」	柴田	7月25日, 8月16日, 10月17日	特別展示室	中止	特別展示の延期にあわせて中止。
博物館たんけん	自然・人文	7月29日	本館	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
企画展示解説「浦賀からやってきた資料たち」	藤井	10月31日	特別展示室	25人	企画展「浦賀からやってきた資料たち」の展示について解説した。
文化財収蔵庫収蔵品解説(国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」)	瀬川	11月1日	文化財収蔵庫	25人	国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」について、漁具・漁法から信仰に至るまで幅広く安室知 神奈川大学教授が解説した。
自然館ミュージアムトーク①～③	自然	① 11月3日 ② 11月28日 ③ 3年1月23日	自然館	① 8人 ② 10人 ③ 中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
わくわくれきし展示ツアー	人文	3年2月15日	2階展示室	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
天神島ガイドツアー	小長谷	毎月第4日曜(計6日開催)	天神島臨海自然教育園	延60人	ビジターセンターの展示や教育園内の自然について解説した。4～6月および1～3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画8件中、実施計4件：延開催日数10日、延参加者数128人

エ ワークショップ

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
植物図鑑のつくりかた	山本	7月28日	講堂	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
子ども地球教室	柴田	8月2日	講堂	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
古文書にチャレンジ!	藤井	8月6日	第1学習室	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
自分でつくる!化石レプリカ①②	柴田	8月22日	講堂	① 24人 ② 28人	化石レプリカ2点(トリゴニア、アンモナイト)を作成し、大昔の生物について学習した。レプリカ作成にあたり博物館実習生12人が子供に指導した。
古代ネックレスをつくろう	人文	8月26日	講堂	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画5件中、実施計1件：延開催日数1日(2回)、延参加者数52人



5-(2)-ア 基礎から学ぼう昆虫学



5-(2)-ア 三浦半島の自然誌 (1)



5-(2)-ア 三浦半島の自然誌 (2)
外部講師：大場 裕一 (中部大学 教授)



5-(2)-ア 三浦半島の自然誌 (3)



5-(2)-イ-(ア) 夜の昆虫かんさつ



5-(2)-イ-(ア) 阿部倉周辺の地層と岩石

(3) 主催事業③ (イベント等その他)

ア 博物館講演会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
特別展示講演会「足跡化石からわかる恐竜のヒミツ」	柴田	8月30日(日)	講座室	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画1件中, 実施計0件: 延開催日数0日, 延参加者数0人

イ 研究発表会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
みんなの理科フェスティバル	自然	3年1月23日(土)・24日(日)	文化会館 第1・2 市民ギャ ラリー	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

当初計画1件中, 実施計0件: 延開催日数0日, 延参加者数0人

ウ 特別公開

(ア) 文化財収蔵庫公開

11月1日・3日, 文化財収蔵庫。普段は公開していない国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」2,603点を公開した。見学者120人。(担当: 瀬川)

(イ) ナイトミュージアム

10月24日, 本館。通常閉館後に特別な動線とライトアップを設置することにより, いつもとは異なる常設展示を体験していただいた。密集を防ぐため, 申込単位のグループ毎2分おきに送り出して見学いただいた。上町商店街および同町内会にご協力いただいた。参加者121人。(担当: 内船・久保田, 指導: 萩原・柴田・内船・瀬川・亀井)

エ クイズラリー・スタンプラリー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
夏休みクイズラリー	萩原 菊地	8月1日(土) ～8月30日(日)	展示室	212人	展示に関わるクイズ10問を出題し, 回答した参加者に缶バッジなどの記念品を贈呈した。

計1件: 延開催日数26日, 延参加者数212人

オ おでかけ博物館

令和2年度未実施



5-(2)-ウ ミュージアムトーク



5-(2)-エ 自分でつくる!化石レプリカ

カ ヴェルニー記念館解説・上映

オリジナル映像番組を全開館日に上映（担当：菊地）

キ キャンペーン

対象や開催時期の共通する行事をまとめることにより，事業の効率化や広報効果の向上を図った。

(ア) 国際博物館の日記念行事

令和2年度未実施

(ウ) 文化ウィーク行事

令和2年度未実施

(イ) 夏休み企画行事

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
夏休みクイズラリー	8月1日(土) ～8月30日(日)	212人	(3)-エ
潮だまりの生き物 博物館たんけん	7月22日(水) 7月29日(水)	中止	(2)-イ-(ア) (2)-ウ
古代ネックレスをつ くろう	8月26日(水)	中止	(2)-エ
子ども地球教室	8月2日(日)	中止	(2)-イ-(ア)
箱めがねで磯の生 き物観察	8月5日(水)	中止	(2)-イ-(ア)
古文書にチャレン ジ!	8月6日(木)	中止	(2)-エ
夜の昆虫かんさつ ①, ②	8月7日(金), 8月8日(土)	① 9人 ② 14人	(2)-イ-(ア)
植物図鑑のつくりか た	7月28日(火)	中止	(2)-エ
自分でつくる!化石 レプリカ①, ②	8月22日(土) ① 9:30～12:00 ② 13:00～15:30	① 24人 ② 28人	(2)-エ

(エ) 2月15日(月) 市制施行記念日

臨時開館を予定したが，新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館した。

当初計画 10 件中，実施計 3 件

：延開催日数 29 日，延参加者数 287 人

ク 式典等

(ア) おうちで博物館めぐりえ + (プラス) 表彰式

11月1日，講座室. 4部門について，部門別の入れ替え制を取りながら表彰式を行った. 参加者 181人. (担当：内船・久保田，対応：高橋・久保田・萩原・内船・亀井・等々力)

(4) 主催事業④ (出版・制作)

ア 館報 67号

PDFデータのみ制作・公開を継続しつつ、紙面の改訂を図った。10月発行。A4版77ページ。無料(PDFデータのみ)。(担当:久保田・菊地・内船)

ページ	項目	ページ	項目
はじめに		65	(2) 研究発表・執筆
博物館事業報告		66	(3) 学術研究団体等協力
3-19	1 特別展示・企画展示		7 分類整理保存事業
20-22	2 研究発表会	69	(1) 資料の寄贈・借用
23-30	3 調査等出張概要	69	(2) 登録資料
31-37	4 ニュース	70-71	(3) 資料の利用
博物館事業概要		72-73	(4) 資料の保守・保存環境保全
5 展示教育普及事業			8 管理事業
38-41	(1) 主催事業①	74-75	(1) 施設利用
42-49	(2) 主催事業②	76	(2) 開館園日数・入館園者
50-52	(3) 主催事業③	77	(3) 人事
53	(4) 主催事業④	77	(4) 予算
54	(5) 共催・協力事業	77	(5) 営繕工事
55-56	(6) 学校教育指導・対応	77	(6) 消防訓練・避難訓練
57	(7) 学校教育以外の指導・対応	77	(7) ホームページ・メールマガジン
58-62	(8) 報道発表・取材等協力	77	(8) 講習会等の参加
6 収集調査研究事業			職員名簿・表紙写真解説
63-64	(1) 調査・研究		

イ 研究報告 (自然科学) 68号

3年3月24日発行。B5版36ページ。550円。(編集委員:萩原・柴田・内船・山本, 担当:萩原)

ページ	著者	論題
1-13	柴田健一郎・松川正樹・マーチン G. ロックレイ・アンドリュース R. C. ミルナー	SfM 多視点ステレオフォトグラメトリーによる恐竜足跡化石の三次元的な記録
15-24	内船俊樹・熊沢深一・中村進一	神奈川県におけるシルピアシジミ(チョウ目:シジミチョウ科)の再出現:三浦半島でのモニタリング調査より
25-26	内船俊樹・天白牧夫	ブラーミネメラヘビの神奈川県横須賀市からの記録
27-28	萩原清司・小長谷美沙	横須賀市天神島臨海自然教育園から得られたホシダカラ亜成員の記録
29-30	萩原清司・幸塚久典	三浦半島から得られたイッサイフシエラガイとミカドウミウシの記録
31-34	大熊友貴・大熊宏明・内船俊樹	横須賀市鴨居における11年間のセミ類鳴き声記録と気温との関係
35-36	山本 薫・辻 功	横須賀市の復田棚田に出現したミズオオバコ

ウ 研究報告 (人文科学) 65号

3年3月27日発行。B5版53ページ。250円。(編集委員:藤井・瀬川)

ページ	著者	論題
1-30	藤井明広	寛政期における旗本の職務実態
31-53	瀬川 渉・福田麻友子	三浦半島におけるアーボヘーボー赤星直忠調査記録をもとに

エ 資料集 45号

3年3月26日発行。B5版27ページ。300円。(編集・担当:柴田)

ページ	著者	論題
1-27	Shibata K., Lockley M. G., Matsukawa M. and Milner A.R.C.	Catalogue of fossil footprints in the Yokosuka City Museum II

オ 博物館だより (自然教育園だより)

最近の話題や展示の見どころ、学芸員の研究内容などをわかりやすく紹介した。各号4ページ。無料。(担当:内船)

号	発行日	編集	目次 (掲載ページ)
1	10月15日	瀬川	巻頭特集:企画展示「浦賀からやってきた資料たち」を開催します(1), おうちで博物館「横須賀市博ムービーチャンネル」(2), 博物館オリジナルグッズ, 販売中!(3), 博物館実習生が制作した写真展 本館(4), 下の広場・下の池を明るくします! 馬堀自然教育園(4)
2	3年3月26日	柴田	巻頭特集:トピックス展示「湊町・ヴェルニー公園の歴史と遺産」(1), 幕末のコレラ流行(2), 三浦半島と周辺海域の活断層(2), 最近みつけためずらしい昆虫たち(3), 臨時休園中の動物たち 天神島臨海自然教育園(4), 雪景色 天神島臨海自然教育園(4), 初春に見られた植物 馬堀自然教育園(4)

カ 特別展示解説書 16『天神島冒険図鑑』

販売終了した2016年度特別展示解説書の増刷にあたり、「ミウラ折(5段7折)」を取り入れた、屋外にて使いやすい形状での改訂を行った。100円(担当:内船)

キ その他

(ア) 缶バッジ

販売用の博物館オリジナルデザインの缶バッジを制作した。8月制作。直径32mm。9種類(アオウミウシ, シロウミウシ, オオシマザクラ, カブトムシ, コクワガタ, ホタル, ぺるり, 清輝, 萩風, 浜風, 不知火, 陸奥)。各50円。(担当:内船・山本)

(5) 共催・協力事業

ア 横須賀市・同市教育委員会等主催

(ア) 横須賀しぜん散歩

横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催による自然観察会を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(イ) よこすか子ども発明展

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(ウ) 親子しぜん観察会

10月4日、横須賀市湘南鷹取（鷹取山）。横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。追浜駅から鷹取山山頂を経由して京急田浦駅までを歩き、昆虫や植物を観察した。（担当：内船）

(エ) 自然環境講演会

3年1月23日、講座室。横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。「三浦半島のホタル」をテーマに、元博物館長の林 公義氏を講師に、久里浜行政センター

館長の本多和彦氏と当館内船学芸員とのトークセッションを予定していたが、新型コロナウイルスによる臨時休館により中止。（担当：内船）

(オ) 海洋クラブ

11月3日～1月16日、横須賀市経済企画部都市戦略課主催。天神島臨海自然教育園東京湾フェリー、JAMSTEC、新江ノ島水族館（Zoom 講義）。（担当：萩原）

イ 市内団体・機関等

令和2年度未実施

ウ 市外団体・機関等

(ア) 中高生サイエンスキャリアプログラム

8月5日、本館。神奈川県立青少年センター主催（協力）。特別展示解説や化石レプリカづくりなどを予定したが、新型コロナウイルスにより中止。（担当：内船・柴田）

(6) 学校教育指導・対応

ア 研究指導

(ア) 神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）プリンキピアⅠ

年間、県立横須賀高等学校ほか、県立横須賀高等学校1学年20人（担当：担当：柴田・内船・山本・藤井）

(イ) 神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）プリンキピアⅡ

年間、本館・天神島臨海自然教育園、県立横須賀高等学校2学年4人（担当：萩原）

(ウ) 神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）プリンキピアⅢ

年間、本館、県立横須賀高等学校3学年2人（担当：萩原・内船）

○1学年（プリンキピアⅠ）

テーマ	生徒数	指導担当
博物館展示のイメージ分析	5人	内船・柴田
三浦半島の虫の調査	5人	内船
ハマダンゴムシの斑紋パターン	5人	山本・内船
くずし字の効果的な勉強方法	5人	藤井

○2学年（プリンキピアⅡ）

テーマ	生徒数	指導担当
磯の生物について	4人	萩原

○3学年（プリンキピアⅢ）

テーマ	生徒数	指導担当
サバに寄生するアニサキスの特性	1人	萩原
靴底の減りと捻挫の関係について（神奈川県立歯科大との共同指導）	1人	内船

(エ) 粘土鉱物分析法指導

7月、本館（オンライン）東京学芸大学4年生2名（指導：柴田）

イ 授業・講義

(ア) 小学校2年生生活科

8月27日、本館。横須賀市立公郷小学校「大きくなあれ わたしのやさい」（担当：内船・山本）

8月27日、横須賀市立野比小学校（担当：内船）

3年2月18日、本館。横須賀市立田戸小学校（担当：内船・山本）

(イ) 小学校4年生総合

3年3月16日、リモート。「環境学習の成果発表」、横須賀市立衣笠小学校（担当：内船）

(ウ) 中学2年生総合

12月14日、校内。「学芸員の仕事」。横須賀市立坂本中学校。横須賀市商工会議所（担当：内船）

(エ) 高等学校課外授業等講師

9月9日、校内。「身近な昆虫の形と色」、県立追浜高等学校。同校美術Ⅰ（担当：内船）

(オ) 大学非常勤講師

大学非常勤講師「博物館実習Ⅰ」、6月、信州大学旭キャンパス。信州大学（担当：内船）

講師「横須賀市自然・人文博物館の地域における活動」、

11月8日,本館.東海大学社会教育実習I(担当:内船)

大学非常勤講師「博物館教育論」,10月~12月,リモート授業.神奈川大学(担当:内船)

ウ 見学・相談・質問対応

(ア) 見学

神奈川大学学芸員課程,11月2日,本館(担当:瀬川)
自民党議員団視察,11月11日,ヴェルニー記念館・ヴェルニー公園(担当:菊地・亀井)
武蔵高校,3年3月26日,バックヤード等(担当:柴田)

(7) 学校教育以外の指導・対応

ア 委員等 学術研究団体・会議等協力

- (ア) 専門委員.横浜市ミヤコタナゴ保護育成検討会.横浜市教育委員会,年間(担当:萩原)
- (イ) 委員.環境教育・環境学習ネットワーク会議横.横須賀市環境政策部,年間(担当:内船)
- (ウ) 委員.里山再生事業審議委員会.横須賀市環境政策部,年間(担当:内船)
- (エ) 委員.小網代の森保全活用対策協議会.神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課,年間(担当:山本)
- (オ) 委員.神奈川県レッドリスト選定・評価委員会 植物・菌類部会.神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課,年間(担当:山本)
- (カ) 委員.第68回全国博物館大会プロジェクト.神奈川県博物館協会,年間(担当:瀬川)
- (キ) 総括部会長.神奈川県博物館協会.神奈川県博物館協会,年間(担当:瀬川)
- (ク) 顧問.逗子市池子の森運営会議.逗子市緑政課,年間(担当:内船)

イ 指導・講師

- (ア) 講師
「はじめてのシダ観察」.東京都檜原都民の森主催,7月1日,東京都檜原都民の森(担当:山本)
「三浦半島の地層と活断層」.16ミリ試写室主催,8

エ 職場体験等指導

- (ア) 中学校職場体験
令和2年度実施なし

オ 博物館実習

8月18日~28日(10日間),12人.本館・馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園・ヴェルニー記念館.実習生所属大学等:鶴見大学・明治学院大学・専修大学・目白大学・東京農業大学・和光大学・八洲学園大学・東京海洋大学・日本大学・北里大学・長岡造形大学.(指導:菊地・萩原・柴田・内船・山本・瀬川・藤井.担当:内船)

- 月12日,横須賀市立図書館中央図書館(担当:柴田)
- 「日本初期写真史連続講座 第一回 横須賀製鉄所と初期写真」.東京都写真美術館主催,12月28日,横浜市写真スタジオ収録中継.(担当:菊地)
- 「横須賀製鉄所から海軍工廠へーその変遷と歴史遺産ー川崎市民アカデミー 学び・歩くかわさき(川崎学)講座」.かわさき市民アカデミー主催,3年2月17日,かわさき市民アカデミー.(担当:菊地)
- 「横須賀の旧海軍遺産と都市文化を巡るルート解説ー横須賀製鉄所から中央・上町地区の古い商店と住宅建築群編ー川崎市民アカデミー 学び・歩くかわさき(川崎学)講座」.かわさき市民アカデミー主催,3年2月24日,かわさき市民アカデミー.(担当:菊地)

ウ 見学等対応

- (ア) 見学
横須賀シティガイド「花と緑」の会.9月17日,本館.(担当:等々力)

エ 職場体験等指導

- (ア) 教職5年経験者社会体験研修
三浦初声高校理科1名,8月21・22日,本館ほか.(指導:自然・人文・運営,担当:内船)

(8) 報道発表・取材等協力

ア 報道発表

日付	表題（発信元）【事業担当者】	担当
5月25日	学んでチャレンジ!“おうちで博物館めぐり”～「おうちで博物館」に新たな学習コンテンツを追加します～【内船・久保田】	内船・久保田
7月17日	天神島の新しいガイドマップを発行しました～新版『天神島冒険図鑑』の販売開始～【内船】	内船・青木

イ 取材対応

対応内容もしくは番組・記事表題（放映・掲載日）	メディア	取材等対応日	担当
休館中の学芸員の仕事風景について取材（4月8日または4月9日）	J:COM	4月5日	萩原
館内の様子の放送のため、常設展示の撮影を許可（5月15日、5月16日～6月30日）	J:COM	5月7日	内船・瀬川
西行政センターから発見された肖像写真に関する取材と写真掲載	神奈川新聞	5月31日	菊地
「うかたま」。馬堀自然教育園のトウキョウサンショウウオの生活や飼育方法などについて取材	うかたま	6月12日・6月26日	萩原
「猫のひたいほどワイド」。『天神島冒険図鑑』を見ながら天神島臨海自然教育園を紹介する企画の取材（9月16日）	TVK	9月8日・9月11日	萩原
「日本公園めぐり：横須賀中央公園」。中央公園のサクラについて、種や由来について現地で解説（10月20日）	テレビ横須賀	9月15日	
「猫のひたいほどワイド」。企画展示「浦賀からやってきた資料たち」について台本の確認（10月22日）	TVK	10月21日	久保田
ヴェルニー記念館の撮影と掲載依頼、並びにコンテンツシナリオの指導依頼	近代歴史遺産ミュージアム ティボディエ邸の映像展示	10月25日	菊地・亀井
「タウンニュース」。企画展示「浦賀からやってきた資料たち」について（11月6日）	タウンニュース	10月30日	青木
「タウンニュース」。企画展示解説への取材対応	タウンニュース	10月31日	藤井
「読売新聞 Friday かながわ」。トピックス展示「ウシ牛・丑年」について、展示写真数、展示標本などについて取材（12月4日）	読売新聞	11月26日	萩原
「神奈川新聞」。企画展示に関する取材対応（12月4日）	神奈川新聞	12月2日	藤井
『横浜ナビ』。企画展示および浦賀の道に関する来館取材への対応（4月）	ネクスコ東日本	3年1月15日	藤井
「グレーテルのかまど」。へらへら団子について（2月15日）	NHK	3年1月22日	瀬川
『写真が語る 横須賀・三浦の100年』。写真集解説文の執筆依頼	いき出版	3年2月9日	菊地
「読売新聞地域紙面」。伏龍関連資料の博物館への寄贈を紹介する新聞記事の電話取材（3年2月21日朝刊）	読売新聞	3年2月19日	菊地

ウ 質問・鑑定等対応

対応内容もしくは番組・記事表題（放映・掲載日）	メディア	取材等対応日	担当
横須賀製鉄所写真の横浜桜木町駅隣接新築ビル内における、「旧横浜鉄道歴史展示」での展示掲載利用	JR 東日本	4月2日	菊地
「プラタモリ」。当館所蔵『横須賀港一覽絵図』の放映利用（4月25日）	NHK	4月7日	藤井
『港湾』。原稿執筆にあたり、小栗上野介と横須賀製鉄所の画像を提供（7月号）	横須賀市港湾整備課	5月1日	菊地・藤井
産業遺産情報センターの展示パネルで利用するペリーの肖像画の提供	産業遺産国民会議	5月30日	藤井
「火曜サプライズ」。スカジャンを見る米軍兵士の写真提供（6月16日）	日本テレビ	6月12日	青木
「さわやか自然百景」。城ヶ島がいつできたかについての質問（7月12日）	NHK	6月12日	柴田
『ACE 建設業界7月号』。当館所蔵資料の掲載利用（7月25日発行）	一般社団法人 日本建設業連合会	6月16日	菊地
「さわやか自然百景」。城ヶ島の自然について昆虫等の同定（7月12日）	NHK	6月17日	萩原・柴田・内船・山本
「さわやか自然百景」。城ヶ島の地層のでき方と隆起した時代についての質問。城ヶ島の潮だまりで撮影された魚類についての同定とメジナ幼魚の生態について質問。（7月12日）	NHK	6月26日	萩原・柴田
図版への「蓼原古墳の琴を弾く男子埴輪」の写真掲載許可	筑摩書房	7月1日	青木
「ZIP」。天神島で撮影した「ヒトデの縄抜け」実験の映像の再編集放送の許可依頼（7月23日）	日本テレビ	7月15日	萩原
「干鯛作りの様子」画像提供（7月26日）	フジテレビ	7月20日	青木
日能研。配布教材への「ペリー艦隊久里浜上陸の図」の画像提供（11月3日）	日能研	8月7日	青木
浦賀奉行所開設300周年記念事業HPに掲載する「米国々書受領之図」,「山海見立相撲 相模浦賀」の画像提供	横須賀市文化スポーツ観光部企画課	8月10日	青木
「さわやか自然百景」。石川県九十九湾の藻場の魚類について同定（9月6日）	NHK	8月18日	萩原

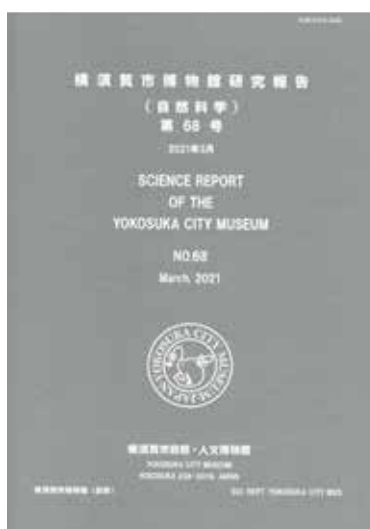
ペリー来航がわかる「久里浜上陸の図」、「ミシシッピ号」、「米国々書受領之図」の画像提供（9月20日、9月27日）	テレビ大阪	8月21日	青木
『歴史街道』。浦賀奉行所開設300周年についてのタイアップ広告内で企画展示「浦賀からやってきた資料たち」の告知と「ペリー久里浜上陸図」の掲載依頼（11月号）	横須賀市文化スポーツ観光部観光課	8月30日	青木
「さわやか自然百景」。八幡平の高山植物の同定	NHK	9月6日	等々力
「はまかせ新聞」。ツブキの花の写真提供	はまかせ新聞	9月9日	萩原
館蔵近代史資料の単行本への掲載	清水堂	10月2日	菊地
富士フィルム会報誌『いろいろ』掲載記事の確認（12月号）	富士フィルム	10月5日	青木
「猫のひたいほどワイド」。企画展示「浦賀からやってきた資料たち」紹介のための画像選定（10月22日）	TVK	10月6日	藤井
「さわやか自然百景」。渡良瀬川で撮影された魚類の画像同定。栃木県足尾山地の昆虫の同定	NHK	10月8日	萩原・内船
浦賀関係の資料所在情報調査	神奈川新聞	10月20日	菊地・藤井
浦賀の繁栄の歴史について	東京新聞	10月28日	菊地
「鉄腕ダッシュ」。ダッシュ海岸で見つかったオキウミウシの生態に関する質問	日本テレビ	11月6日	萩原
「まるさんかくしかく」。館所蔵資料「鉞切遺跡出土牛骨」の撮影及び提供		11月11日	青木
「今夜はナソレ」。絵葉書ペリー肖像「久里浜上陸の図」画像貸出（12月8日）	フジテレビ	11月27日	青木
「ヴェルニー記念館外観」「3トンスチームハンマー」画像提供	はとバス	11月28日	青木
「HIS270・青年期のペリー肖像画写真」の画像提供（3年1月末）	東京ニュース通信社	12月3日	青木
「鉄腕ダッシュ」。ダッシュ海岸で採集されたウミウシ類の生態について	日本テレビ	12月4日	萩原
「さわやか自然百景」。東京都あきる野市で撮影された魚類とエビ類、昆虫類の同定（12月27日）	NHK	12月15日	萩原・内船
「神奈川新聞」。久里浜上陸の図」画像提供（12月31日）	神奈川新聞	12月16日	青木
ヴェルニー記念館写真掲載と紹介文の校正	神奈川国際交流課	12月18日	菊地
博物館資料の画像展示利用	COASKA 内商店	12月22日	菊地
「南日本新聞」。北半球初記録の「ホコサキキララハゼ」の発見地点・経緯について質問	南日本新聞	12月23日	萩原
「鉄腕ダッシュ」。ウミウシ類の画像による同定とムナビレハダカエソ画像の使用許可（3年1月1日）	日本テレビ	12月24日	萩原
当館所蔵資料のテレビ放映利用	NHK BS プレミアム	3年1月6日	菊地
『写真が語る 横須賀・三浦の100年』。当館所蔵資料の掲載	イキ出版	3年1月6日	菊地
立石はどのようにできたのかについて質問	BS 朝日極上空間	3年1月6日	柴田
「読売新聞地域面 Friday 神奈川」。理科フェスティバル記事掲載について（3年1月15日）	読売新聞	3年1月7日	内船
「鉄腕ダッシュ」。本牧で採集されたワカメは現存するか、アオウミウシの分布と体内生産物についての質問（3年1月31日）	日本テレビ	3年1月13日	萩原
『横浜ナビ』。「山海見立相撲 相模浦賀」の画像提供。浦賀造船所の位置などについて質問（3年4月）	ネクスコ東日本	3年1月20日・3月2日	藤井
当館所蔵資料のテレビ放映利用依頼（3年1月27日）	NHK BS プレミアム	3年1月22日	菊地
「さわやか自然百景」。熊本県荒尾干潟で撮影されたカワウが捕食した魚類の同定（3年2月7日）	NHK	3年1月22日	萩原
「四季折々の贈り物」。温石画像提供（3年2月14日）	TBS	3年1月28日	藤井
野島貝塚展チラシへの当館所蔵資料の掲載利用依頼	横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター	3年1月29日	菊地
歴史資料掲載利用相談		3年1月29日	菊地
昆虫の音に関する考証	NHK デザインセンター 音響デザイン部	3年2月3日	内船
「タウンニュース」。当館所蔵資料の掲載利用依頼	タウンニュース	3年2月5日	菊地
野島貝塚展チラシへの考古資料画像の掲載依頼	横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター	3年2月9日	菊地
「あなたの駅前物語」。浦賀の歴史資料の所在情報相談	テレビ朝日	3年2月9日	菊地
三浦按針像の画像貸し出し	共同通信	3年2月15日	藤井
「青天を衝け」。当館所蔵資料のテレビ放映利用依頼	NHK	3年2月18日・3月26日	菊地
「WEB ヴァーチャル修学旅行」。ペリーの画像貸出対応（3年3月21日）	テレビ朝日	3年2月18日	青木
「ミミクリーズ」。外国産熱帯魚「Bicolor dottyback」の読み方について質問	NHK E テレ	3年3月3日	萩原
旗本新見正興の肖像について	朝日新聞	3年3月9日	藤井
「さわやか自然百景」。東京都東久留米市で撮影された魚類の画像による同定（3年3月28日）	NHK	3年3月13日	萩原
「神奈川新聞」。横須賀製鉄所製図工長メラング家旧蔵資料の市重文指定に伴う新聞記事への写真掲載依頼	神奈川新聞	3年3月19日	菊地

「YOUは何しに日本へ?」. 「HIS1 スカジャンを店先で試着する兵士」画像貸出対応	テレビ東京	3年3月24日	青木
「失踪!エイトマイル」. ハイネ画「ペリー艦隊久里浜上陸の図」画像貸出対応(3年3月28日)	日本テレビ	3年3月24日	青木
「わくわくクイズ図鑑」. ヒョウモンダコとオオマルモンダコの違いについて質問. 映像の使用依頼.	日テレアックスオン	3年3月25日・3月30日	萩原
「読売新聞 Friday かながわ」. メラング家旧蔵資料画像貸出掲載依頼	読売新聞	3年3月26日	青木
「映像の世紀プレミアム〜東京 破壊と創造の150年」. 近代建築写真の画像データ提供とテレビ放映利用依頼(3年4月3日)	NHK BS プレミアム	3年3月31日	菊地

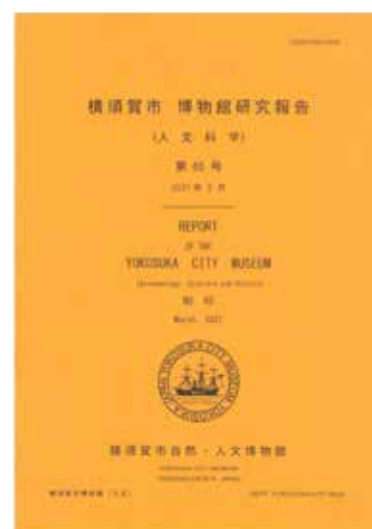
《出版物表紙》



館報 67号 (※ PDFのみ発行)



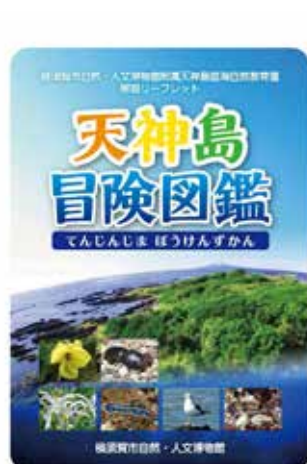
研究報告(自然科学) 68号



研究報告(人文科学) 65号



資料集 45号



『天神島冒険図鑑』

6 収集調査研究事業

(1) 調査・研究

ア 調査・研究テーマ

- (ア) 三浦半島淡水生物調査, 年間, 三浦半島 (担当: 萩原)
- (イ) 三浦半島沿岸生物調査, 年間, 三浦半島 (担当: 萩原)
- (ウ) 三浦半島の地質調査, 年間, 三浦半島 (担当: 柴田)
- (エ) 「足跡化石コレクションの構築と児童生徒が創造的, 探究的に学習できる展示の開発」科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題 (JP17K12968), 年間 (担当: 柴田)
- (オ) 三浦半島昆虫相調査, 年間, 三浦半島 (担当: 内船)
- (カ) 昆虫形態発生研究, 年間 (担当: 内船)
- (キ) 身近な昆虫の地域間比較調査, 年間 (担当: 内船)
- (ク) 地域博物館連携に関する実践的研究, 年間 (担当: 内船)
- (ケ) 「里山環境モデル地区における生物相調査 (里山的环境保全・活用事業)」 「自然環境調査に関する生物相調査 (身近な自然の保全とふれあい推進事業)」 自然環境共生課所管事業 (担当: 萩原・内船・山本)
- (コ) 三浦半島農業調査 (担当: 等々力・内船)
- (サ) 三浦半島植物相調査, 年間 (担当: 山本)
- (シ) 「シダ植物の独立配偶体の DNA バーコーディングを活用した探索とその成立要因の解明」 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題

- (19H03288) 研究分担, 年間 (担当: 山本)
- (ス) 「ハマダンゴムシにみられる色斑多型の機能と維持機構」 2020 年度笹川科学研究助成 (2020-4103), 研究代表, 4月1日～3年2月10日 (担当: 山本)
- (セ) 「暖地性シダ植物マツバランの系統地理解析: 特に神奈川県産個体の由来に着目して」 共同研究, 年間 (担当: 山本)
- (ソ) 三浦半島の近代化遺産調査, 年間, 三浦半島 (担当: 菊地)
- (タ) 「横須賀製鉄所における中国経由でのフランス系建築技術と様式の導入に関する研究」 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金), 基盤研究 (C) (一般), 研究課題 (18K04552), 年間 (担当: 菊地)
- (チ) 三浦半島の民俗調査, 年間, 三浦半島 (担当: 瀬川)
- (ツ) 「南関東地方における湯立神楽の基礎的研究」 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題 (JP19K01218) 研究分担, 年間 (担当: 瀬川)
- (テ) 三浦半島の文献史調査, 年間, 三浦半島 (担当: 藤井)
- (ト) 旗本に関する研究, 年間 (担当: 藤井)

イ 調査出張等

日付	調査地 (出張者)	参照
5月12日	横須賀市立総合高等学校・生涯学習課文化財整理室 (菊地)	(ソ)
5月21日	三浦市南下浦町 (山本)	(サ)
5月31日	衣笠・大矢部 (瀬川)	(チ)
6月5日	ヴェルニー公園 (菊地・亀井)	(ソ)
6月5日	三浦市南下浦町 (山本)	(サ)
6月10日	横浜市鶴見区末広町1-11 (菊地・亀井)	(ソ)
6月12日	横須賀市日の出町 (内船)	(オ)
6月13日	消防博物館 (瀬川)	(チ)
6月16日	横須賀市鴨居 (菊地・瀬川・藤井)	(ソ・チ・テ)
6月18日	馬堀自然教育園 (内船)	(オ)
6月19日	横須賀市野比 (内船)	(ケ)
6月24日	三浦市海南神社 (瀬川)	(チ)
6月24日	国立公文書館 (藤井)	(テ)
6月24日	国立科学博物館筑波実験植物園 (山本)	(セ)
6月26日	横須賀市かがみ田 (萩原・内船・山本)	(ケ)
7月2日	住友重機械工業・浦賀工場 (菊地・亀井)	(ソ)
7月4日	横浜市神奈川区 (瀬川)	(チ)
7月6日	横須賀市田戸 (内船)	(オ)
7月7日	横須賀市荒崎 (内船・山本)	(ケ)

7月7日	ヴェルニー公園 (菊地・亀井)	(ソ)
7月8日	横須賀市田浦町小林家 (菊地・瀬川・藤井)	(ソ・チ・テ)
7月10日	横須賀市湘南鷹取 (内船)	(ケ)
7月14日	国立歴史民俗博物館 (瀬川)	(チ)
7月21日	横須賀市かがみ田 (内船・山本)	(ケ)
7月25日～7月30日	東京都伊豆大島調査 (山本)	(シ・ス)
7月28日	八潮市郷土資料館 (瀬川)	(チ)
7月31日	横浜都市発展記念館 (菊地・亀井)	(ソ)
8月8日	静岡県伊豆の国市 (藤井)	(テ)
8月10日～8月11日	横須賀市天神島 (内船・山本)	(ケ)
8月12日	横須賀市走水 (藤井)	(テ)
8月13日	横須賀市鴨居 (内船)	(オ)
8月14日	横浜国立中央図書館 (瀬川)	(チ)
8月17日	金沢八景駅・瀬戸変電所 (菊地・亀井)	(ソ)
8月18日	中央公園 (柴田)	(ウ)
8月19日	中央公園 (柴田)	(ウ)
8月24日	横須賀市かがみ田 (山本)	(ケ)
8月25日	横須賀市立総合高等学校・生涯学習課文化財整理室 (菊地・亀井)	(ソ)
8月25日～8月29日	萩博物館ほか (藤井)	(テ)

8月28日	中央公園(柴田)	(ウ)
9月1日	横須賀市逸見(内船)	(オ)
9月1日	中野区立歴史民俗資料館(瀬川)	(チ)
9月3日	横須賀市若松町(内船)	(オ)
9月3日	横須賀市芦名(瀬川)	(チ)
9月3日	小田原市(藤井)	(テ)
9月4日	横須賀市若松町(内船)	(オ)
9月6日	横須賀市西逸見町(内船)	(オ)
9月6日	横須賀市田浦・芦名(瀬川)	(チ)
9月8日	横浜市立中央図書館(瀬川)	(チ)
9月15日～ 9月18日	滋賀県立琵琶湖博物館ほか(柴田・内船・瀬川・藤井)	博物館視察 (エ)
9月25日	横須賀市田浦(瀬川)	(チ)
9月29日	横須賀市湘南鷹取(内船)	(ケ)
10月6日	文京ふるさと歴史館(瀬川)	(チ)
10月13日	横浜市立中央図書館(瀬川)	(チ)
10月13日	三浦市浜諸磯(柴田)	(ウ)
10月18日	横須賀市田浦(瀬川)	(チ)
10月20日	天神島臨海自然教育園(内船)	(オ)
10月20日	NHK放送博物館(瀬川)	(チ)
10月20日	横須賀市湘南国際村・横須賀市 上下水道局倉庫(菊地・亀井)	(テ)
10月23日	三浦市教育委員会(瀬川)	(チ)
10月23日	千葉県佐倉市(藤井)	(テ)
10月25日	逗子市池子(内船)	(オ)
10月25日	三浦市和田(藤井)	(テ)
11月5日	前田川生物調査(萩原)	(ア)
11月5日	房総のむら博物館(瀬川)	(チ)
11月6日	逗子市池子(内船)	(オ)
11月8日	あつぎ郷土博物館(瀬川)	(チ)
11月11日	横浜中央図書館(藤井)	(テ)
11月14日	横須賀市田浦(瀬川)	(チ)
11月17日	平作川上流域調査(萩原)	(ア)
11月19日	横浜市(藤井)	(テ)
11月23日	神奈川県立図書館(菊地)	(ソ)
11月24日	港区立郷土歴史館(瀬川)	(チ)
11月25日	鎌倉市(藤井)	(テ)
11月27日	横須賀市上下水道局逸見総合管 理センターほか(菊地・亀井)	(ソ)
11月27日	法務省法務史料展示室(瀬川)	(チ)
12月1日	藤沢市文書館(藤井)	(テ)
12月1日	葛飾区立郷土と天文の博物館(瀬川)	(チ)
12月1日	神奈川県立大学(菊地・亀井)	(ソ)
12月8日	三浦市浜諸磯(柴田)	(ウ)
12月9日	YRP研究所(菊地・亀井)	(ソ)
12月10日	京急ミュージアム(瀬川)	(チ)

12月11日	相模原市(藤井)	(テ)
12月15日	成城大学民俗学研究所(瀬川)	(チ)
12月15日	埼玉県川越市(藤井)	(テ)
12月16日	横須賀市立横須賀総合高等学校 (菊地・亀井)	(ソ)
12月22日	東京都立中央図書館(藤井)	(テ)
12月22日～ 12月23日	大阪市中央区少彦名神社ほか(瀬川)	(チ)
12月24日	神奈川県立歴史博物館(瀬川)	(チ)
12月26日	鎌倉歴史文化交流館(藤井)	(テ)
3年1月4日	山手警察署(瀬川)	(チ)
3年1月7日	川崎市川崎区(瀬川)	(チ)
3年1月14日	横須賀市林(船久保)(柴田)	(ウ)
3年1月15日	横須賀市鴨居八幡神社(瀬川)	(チ)
3年1月17日	横須賀市長井(瀬川)	(チ)
3年1月20日	海老名温故館(瀬川)	(チ)
3年1月27日	横須賀市久里浜(瀬川)	(チ)
3年2月1日	秦野市(藤井)	(テ)
3年2月6日	横浜市旭区・大和市つる舞の里 歴史資料館(瀬川)	(チ)
3年2月10日	葉山町(藤井)	(テ)
3年2月14日	横須賀市須軽谷(瀬川)	(チ)
3年2月18日	横須賀市須軽谷(瀬川)	(チ)
3年2月19日	横須賀市長井(瀬川)	(チ)
3年2月21日	藤沢市羽鳥(瀬川)	(チ)
3年2月23日	県立図書館(瀬川)	(チ)
3年2月27日	横浜市立中央図書館(瀬川)	(チ)
3年3月9日	渋沢×北区 青天を衝け 大河ドラ マ館(瀬川)	(チ・テ)
3年3月11日	三浦市浜諸磯・油壺(柴田)	(ウ)
3年3月12日	日比谷図書館文化館(瀬川)	(チ)
3年3月16日	深谷大河ドラマ館(瀬川)	(チ・テ)
3年3月17日	横須賀市佐島(笠島)(柴田)	(ウ)
3年3月18日	埼玉県深谷市(藤井)	(テ)
3年3月19日	平塚市博物館(瀬川)	(チ)
3年3月20日	神奈川県近代文学館(瀬川)	(チ)
3年3月24日	静岡県牧之原市(瀬川)	(チ)
3年3月24日	静岡県伊豆の国市(藤井)	(テ)
3年3月25日	鎌倉文化交流館(瀬川)	(チ)
3年3月26日	埼玉県立歴史と民俗の博物館(瀬川)	(チ)
3年3月30日	横須賀市佐島(笠島)(柴田)	(ウ)
3年3月30日	品川歴史館(瀬川)	(チ)
3年3月30日	千葉県千葉市(藤井)	(テ)
3年3月31日	アクアマリンふくしま(瀬川)	(チ)
3年3月31日	埼玉県所沢市(藤井)	(テ)

※「参照」の(ア)～(ニ)は前項アを参照

(2) 研究発表・執筆

ア 口頭発表等(ポスター発表を含む)

発表者・論題	発表日	大会名称(開催地)	発表種別	参照・参考
内船俊樹: コロナ禍の地域博物館(2020年2月～6月をふりかえる)	7月4日	博物館分科会2020第1回オンライン学習会準備会(オンライン)	口頭	(ク)
内船俊樹: 地域とつながる地域博物館～地域連携から博物館を変えるアプローチ～	8月1日	博物館分科会2020第2回オンライン学習会準備会(オンライン)	口頭	(ク)

※「参照・参考」の(ア)～(ニ)は6-(1)-アを参照

イ 論文等執筆・講演要旨

著者・論題	掲載書誌・巻号・頁・発行月	参照・参考
Lockley M. G., Breithaupt B. H., Matthews N. A., Shibata K. and Hunt-Foster R. : 2020 A Lower Jurassic <i>Eubrontes</i> -dominated tracksite in the Navajo Formation, eastern Utah: proposed protocols for unravelling tracksite history.	<i>Geological Society of America Abstracts with Programs</i> , 52 (3): doi: 10.1130/abs/2020RM-346555. (5月)	(エ)
内船俊樹：2020 地域とつながる博物館——地域連携から博物館を変えるアプローチ (特集 地域とつながる社会教育事業)	月刊社会教育, (768): 25-31. (5月)	(ク)
菊地勝広：2020 近代建築史から登戸研究所を読み解く—横須賀市自然・人文博物館付属馬堀自然教育園開園 60 周年・明治大学平和教育登戸研究所資料館開館 10 周年記念コラボ企画記録—	明治大学平和教育登戸研究所資料館館報第 6 号 : pp.137-170. (9月)	(ソ)
Lockley M. G., Breithaupt B. H., Matthews N. A., Shibata K. and Hunt-Foster R. : 2021A preliminary report on an Early Jurassic <i>Eubrontes</i> -dominated tracksite in the Navajo Sandstone Formation at the Mail Station Dinosaur Tracksite, San Juan County, Utah.	<i>New Mexico Museum of Natural History and Science Bulletin</i> , (82): 195-208. (3年1月)	(エ)
柴田健一郎・野崎 篤・高橋直樹・笠間友博・西澤文勝・田口公則：2021 三浦半島の第三系と第四系：付加体—外縁隆起帯—前弧海盆堆積物	神奈川博調査研報 (自然), (16): 69-106. (3年3月)	(ウ)
柴田健一郎・松川正樹・マーチン G. ロックレイ・アンドリュー R. C. ミルナー：2021 SfM 多視点ステレオフォトグラメトリーによる恐竜足跡化石の三次元的な記録	横須賀市博研報 (自然), (68): 1-13. (3年3月)	(エ)
内船俊樹・熊沢深一・中村進一：2021 神奈川県におけるシルビアシジミ (チョウ目：シジミチョウ科) の再出現：三浦半島でのモニタリング調査より	横須賀市博研報 (自然), (68): 15-24. (3年3月)	(オ)
内船俊樹・天白牧夫：2021 ブラーミニメクラヘビの神奈川県横須賀市からの記録	横須賀市博研報 (自然), (68): 25-26. (3年3月)	(オ)
萩原清司・小長谷美沙：2021 横須賀市天神島臨海自然教育園から得られたホシダカラ垂成貝の記録	横須賀市博研報 (自然), (68): 27-28 (3年3月)	(イ)
萩原清司・幸塚久典：2021 三浦半島から得られたイッサイフシエラガイとミカドウミウシの記録	横須賀市博研報 (自然), (68): 29-30. (3年3月)	(イ)
大熊友貴・大熊宏明・内船俊樹：2021 横須賀市鴨居における 11 年間のセミ類鳴き声記録と気温との関係	横須賀市博研報 (自然), (68): 31-34. (3年3月)	(オ)
山本 薫・辻 功：2021 横須賀市の復田棚田に出現したミズオオバコ	横須賀市博研報 (自然), (68): 35-36. (3年3月)	(ケ)
Shibata K., Lockley M. G., Matsukawa M. and Milner A. R. C. : 2021 Catalogue of fossil footprints in the Yokosuka City Museum II	<i>Mis. Rept. Yokosuka City Mus.</i> , (45): 1-27. (3年3月)	(エ)
藤井明広：2021 寛政期における旗本の職務実態	横須賀市博物館研究報告 (人文科学), (65) : 1-30. (3年3月)	(ト)
瀬川 渉・福田麻友子：2021 三浦半島におけるアーボヘーボ	横須賀市博物館研究報告 (人文科学), (65) : 31-53. (3年3月)	(チ)
Fujiwara K., Hagiwara K. and Motomura H. : 2020 Redescription of <i>Lepadichthys coccinotanea</i> Regan 1921 and description of <i>Lepadichthys trishula</i> sp. nov. from southern Japan (Gobiesocidae: Diademichthyinae).	<i>Ichthyological Research</i> , (67): 442-438 (2年2月)	(イ)
Fujiwara K., Hagiwara K., Suzuki T. and Motomura H. : 2020 <i>Acentrogobius limarius</i> (Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan: First Northern Hemisphere records.	<i>Species Diversity</i> , (25): 355-359 (11月)	(イ)

※「参照・参考」の (ア) ~ (ニ) は 6-(1)-アを参照

ウ その他執筆

著者・論題	掲載書誌・巻号・頁・発行月	参照・参考
藤井明広：ペリー提督来航の事前情報	まなびかんニュース (横須賀市／横須賀市生涯学習財団), 4 月号 : 8 (4月)	(テ)
内船俊樹：春から初夏, 海岸の植物で昆虫を探そう	まなびかんニュース (横須賀市／横須賀市生涯学習財団), 5 月号 : 8. (5月)	(オ)
柴田健一郎：古東京湾と横須賀	まなびかんニュース (横須賀市／横須賀市生涯学習財団), 6 月号 : 8. (6月)	(ウ)
山本 薫：梅雨を彩る紫陽花 (あじさい)	よこすか ECO 通信 (横須賀市／環境教育・環境学習ネットワーク会議), 37 : 8. (6月)	(ケ)
藤井明広：幕末期のコレラ流行	学芸員自然と歴史のたより (6月)	(テ)
内船俊樹：2020 先輩学芸員・大場さんの背中 (追悼特集号)	ホテルのニュースレター, (86): 15-19. (7月)	(ク)
内船俊樹：2020 季節の自然図鑑「第 37 回 夏の夜に現わる! 砂浜のハマダンゴムシ」	よこすか ECO 通信 (横須賀市／環境教育・環境学習ネットワーク会議), 38 : 4. (9月)	(オ)

藤井明広：将軍徳川家茂の浦賀寄港	まなびかんニュース（横須賀市／横須賀市生涯学習財団），9月号：12.（9月）	(テ)
菊地勝広：浦賀を彩る2つの赤れんがドック	まなびかんニュース（横須賀市／横須賀市生涯学習財団）10月号：12.（10月）	(ソ)
柴田健一郎：野比海岸の地層と活断層	よこすか ECO 通信（横須賀市／環境教育・環境学習ネットワーク会議），39：4（12月）	(ウ)
瀬川 渉：生簀の秘密	まなびかんニュース（横須賀市／横須賀市生涯学習財団），1月号：12.（3年1月）	(チ)
萩原清司：春の渡り鳥	よこすか ECO 通信（横須賀市／環境教育・環境学習ネットワーク会議），40：4.（3年3月）	(イ)
菊地勝広：横須賀の近代化遺産－JR 横須賀線	まなびかんニュース（横須賀市／横須賀市生涯学習財団）3月号：12.（3年3月）	(ソ)
菊地勝広：六 変わりゆく風景	『写真が語る 横須賀・三浦の100年』。いき出版.（3年3月）	(ソ)

※「参照・参考」の(ア)～(ニ)は6-(1)-アを参照

(3) 学術研究団体・会議等協力

団体	役割	期間	担当
日本魚類学会	日本分類学会連合日本魚類学会代表	年間	萩原
三浦半島昆虫研究会	編集委員・例会幹事	年間	内船
日本節足動物発生学会	編集幹事	年間	内船
横須賀市環境政策部	里山再生事業審議委員	年間	内船
第60回社会教育研究全国集会	第17分科会世話人	年間	内船
横須賀植物会	顧問	年間	山本
日本植物分類学会	ニュースレター幹事	年間	山本
相模民俗学会	運営委員	年間	瀬川
歴史学会	理事	年間	藤井
立正大学史学会	理事	～11月	藤井
熊谷市史編さん委員会（埼玉県熊谷市）	専門調査員	年間	藤井

《制作物（缶バッジ）》



アオウミウシ



シロウミウシ



オオシマザクラ



カブトムシ



コクワガタ



ホタル



ぺるり



清輝



萩風



浜風



不知火



陸奥

7 分類整理保存事業

(1) 資料の寄贈・借用

ア 寄贈資料

資料名称・点(件)数	受入日	寄贈者・機関	部門
ノウサギ 1点	5月2日	柳本 茂	動物
桶・樽ほか	6月17日	飯田康子	民俗
書籍等一式	6月17日	飯田康子	歴史
トランジスタラジオほか	9月2日	鈴木掛登	民俗
三浦半島の民俗写真コレクション	9月6日	辻井善彌	民俗
化石・岩石・鉱物資料 17点	10月16日	中澤仁史	地球科学
カイマン剥製	10月27日	菊谷雄一	動物
アオウミガメ剥製 2点	10月27日	上田 滋	動物
オオフウチョウ剥製	10月28日	菊谷雄一	動物
古文書(写本)	11月4日	鈴木昭夫	歴史
書籍・ネガフィルム一式	11月14日	小林民具資料室	民俗
書籍一式	11月14日	小林民具資料室	歴史
化石・岩石・鉱物資料 504点	12月9日	武 菊夫	地球科学
軟体動物資料 1,095点	12月9日	武 菊夫	動物
昆虫資料 1,761点	12月9日	武 菊夫	動物
古文書(写本)	3年1月15日	羽田野浩史	歴史
久村稻荷講職	3年1月27日	山田昌彦	民俗
図書資料 1,957点	3年2月17日	蟹江康光	図書
ニタリ標本	3年3月4日	浦安市郷土博物館・島村学芸員	動物
貝殻標本 1式	3年3月23日	中嶋正人	動物
古文書(写本)	3年3月27日	安井英夫	歴史

計 21 件

イ 借用資料

資料名称・点数・備考	借用期間	借用者・機関	部門
植物資料 5点	4月1日～6月3日	神奈川県立生命の星・地球博物館	植物
植物資料 9点	4月1日～9月27日	神奈川県立生命の星・地球博物館	植物
船筆筒(常設展示品として引き続き借用中) 1点	4月1日～3年3月31日	幸保富雄	歴史

計 3 件

(2) 登録資料

ア 自然科学資料

部門・分野	登録資料件数	(新規登録件数)
地球科学	5,871件	(238件)
古生物資料	2,690件	(7件)
岩石資料	850件	(10件)
鉱物資料	195件	(13件)
地質調査報告書	2,136件	(208件)
動物	95,491件	(28件)
昆虫資料	36,409件	(18件)
魚類資料	46,176件	(2件)
軟体動物資料	9,859件	(1件)
両生爬虫類資料	583件	(3件)
鳥類資料	983件	(1件)
甲殻類資料	1,070件	(0件)
哺乳類資料	410件	(2件)
植物	78,272件	(1,373件)
維管束植物	70,575件	(1,156件)
藻類	4,676件	(217件)
蘚苔類	2,963件	(0件)
菌類	58件	(0件)

イ 人文科学資料

部門・分野	登録資料件数	(新規登録件数)
考古	84件	(0件)
歴史	413件	(16件)
登録銃砲刀剣類	18件	(0件)
民俗	737件	(16件)

ウ 図書資料

部門	登録資料件数	(新規登録件数)
自然科学	99,236件	(832件)
人文科学	68,399件	(704件)

(3) 資料の利用

資料名 (代表ほか件数)	利用形態 (用途)	利用日/期間 (回数)	利用者 (所属) / 団体	部門
サクラ類画像 2点	画像貸出	4月1日～ 3年3月31日	自然環境共生課	植物
横須賀製鉄所写真の横浜桜木町駅隣接新築ビル内における「旧横浜鉄道歴史展示」での展示掲載利用	画像貸出	4月7日	JR東日本	近代建築史
横須賀港一覧絵図	画像貸出	4月7日	NHK (プラタモリ)	歴史
奄美大島産キララハゼ属の一種	貸出	4月8日	本村浩之 (鹿児島大学)	動物
小栗上野介・横須賀製鉄所画像	画像貸出	5月1日	港湾整備課	歴史・近代建築史
ナウマンゾウ全身骨格画像	貸出	5月12日	山根秋郷 (『土と語り骨に聴く 彫刻家 小村悦夫』に掲載)	地球科学
ペリー肖像画	画像貸出	5月30日	産業遺産国民会議	歴史
「スカジャンを見る米軍兵士」画像	画像貸出	6月12日	日本テレビ	近代建築史
昔の道具・生活画像	画像貸出	6月15日	福祉部健康長寿課	民俗
近代建築史資料	画像貸出	6月16日	(一社)日本建設業連合会 (『ACe 建設業界 7月号』)	近代建築史
ミウラニシキ	閲覧	6月18日	森裕美子・山浦安曇 (理科ハウス)	地球科学
イシヨウジ属魚類標本 57点	貸出	6月25日	遠藤広光 (高知大学)	動物
蓼原古墳出土弾琴男子椅座像埴輪	画像貸出	7月1日	筑摩書房	考古
煙水晶画像	貸出:『ミネラ 66号』に掲載	7月7日	古橋 尚	地球科学
地質調査報告書	貸出	7月17日	横須賀市都市部公共建築課	地球科学
常設展示メ粕作りパネル	画像貸出	7月20日	フジテレビ	民俗
ペリー上陸図	画像貸出	8月7日	日能研	歴史
米国国書受領之図, 山海見立相撲相州浦賀	画像貸出	8月10日	文化スポーツ観光部企画課	歴史
ペリー上陸図, ミシシッピ号, 米国国書受領之図	画像貸出	8月21日	テレビ大阪	歴史
ペリー上陸図	画像貸出	8月30日	文化スポーツ観光部観光課	歴史
三浦半島産昆虫類 50点標本	貸出	9月3日～ 11月20日	県立横須賀高校	昆虫
ツツブキの花	画像貸出	9月9日	はまかせ新聞	植物
ボーリングコア資料	貸出	10月1日	横須賀市立豊島小学校	地球科学
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	10月2日	清水堂	近代建築史
地質調査報告書	貸出	10月8日	横須賀市経営企画部まちづくり政策課	地球科学
地質調査報告書	貸出	10月14日	上下水道局技術部下水道管渠課	地球科学
アナハゼ属及びクダリボウズギス属魚類標本 28点	貸出	10月20日	遠藤広光 (高知大学)	動物
蓼原古墳出土 円筒埴輪1点, 同 埴輪片 1箱, 蓼原古墳調査時写真 2点	貸出	10月29日～ 11月6日	横須賀市教育委員会生涯学習課	考古
鉦切遺跡出土牛頭骨	画像貸出	11月11日	郡山市大安場史跡公園	考古
水桶, カケヤ, 天秤棒, 鋤, パイスケ, 竹箕	貸出	11月12日～ 12月3日	小原台小学校 3年	民俗
鉦切遺跡出土牛頭骨画像	画像貸出	11月20日	大安場史跡公園	考古
浜浅葉日記 6点	貸出	11月20日～ 3年2月19日	神奈川県立歴史博物館	歴史
ペリー肖像画, ペリー上陸図	画像貸出	11月27日	フジテレビ	歴史
3トンスチームハンマー	画像貸出	11月28日	はとバス	近代建築史
青年期のペリー肖像画	画像貸出	12月3日	東京ニュース通信社	歴史
鉦切遺跡出土牛頭骨	画像貸出	12月5日～ 3年1月24日	那珂川町なす風土記の丘資料館	考古
ペリー上陸図	画像貸出	12月16日	神奈川新聞	歴史
動物骨格標本 (ノウサギ, ホンドタヌキ, ニホンザル, ハト)	貸出	12月19日	田川幸一 (横浜市立立野小学校)	動物
古写真類一括 (旧海軍, 街並み, 横須賀製鉄所ほか)	画像貸出	12月22日	COASKA内商店	近代建築史
ムナビレハダカエソ画像の使用許可	画像貸出	12月24日	日本テレビ	動物
地質調査報告書	貸出	12月24日	上下水道局技術部下水道管渠課	地球科学
奄美群倒産魚類資料	閲覧	3年1月5日 ～1月7日	赤池貴大 (鹿児島大学)	動物
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	1月6日	NHK BS プレミアム	近代建築史
古写真類一括 (街並み中心)	画像貸出	1月6日	イキ出版	近代建築史
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	1月22日	NHK BS プレミアム	近代建築史
膳椀, 炭火アイロン, 黒電話, わらじ, 火のし, 下駄, 練炭コンロ, 棒秤, 洗濯板・たらい, 釜, 昔の教科書	貸出	3年1月8日 ～2月19日	森崎小学校 3年	民俗

琉球列島産メギス科, タナバタウオ科, スナハゼ科, イソハゼ属魚類標本 106 点	貸出	3 年 1 月 13 日	本村浩之 (鹿児島大学)	動物
千歯こき絵画画像	掲載	3 年 1 月 15 日	東京書籍	民俗
温石	画像貸出	3 年 1 月 28 日	TBS	歴史
野島貝塚出土遺物	画像貸出	1 月 29 日	横浜市ふるさと歴史財団	考古
近代史資料	画像貸出	2 月 5 日	タウンニュース	近代建築史
乗越遺跡出土 須恵器6点, 同瓦 8 点	貸出	3 年 2 月 13 日 ～ 3 月 31 日	海老名市教育委員会	考古
三浦按針胸像	画像貸出	2 月 15 日	共同通信社	歴史
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	2 月 18 日	NHK	近代建築史
ペリー肖像画	画像貸出	2 月 18 日	テレビ朝日	歴史
洗濯板・たらい, ガンドウ, 釜, 箱まくら, わらじ, 膳椀, 炭火アイロン, ビンボウドックリ, かつお節削り器	貸出	3 年 2 月 27 日 ～ 3 月 20 日	小原台小学校 4 年	民俗
逗子市池子産昆虫類標本	閲覧	3 年 3 月 9 日	鈴木 裕	昆虫
パーマ器 1 点, モデルウィッグ 1 点	貸出	3 年 3 月 2 日～ 3 月 31 日	神奈川県立神奈川近代文学館	民俗
逗子市池子産昆虫類標本	閲覧	3 年 3 月 13 日	鈴木 裕	昆虫
メラング家旧蔵資料	画像貸出	3 年 3 月 19 日	神奈川新聞	近代建築史
スカジャンを店先で試着する兵士	画像貸出	3 年 3 月 24 日	テレビ東京	近代建築史
ペリー上陸図	画像貸出	3 年 3 月 24 日	日本テレビ	歴史
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	3 年 3 月 26 日	NHK	近代建築史
メラング家旧蔵資料	画像貸出	3 年 3 月 26 日	読売新聞	近代建築史
横須賀製鉄所・近代史資料	画像貸出	3 年 3 月 31 日	NHK BS プレミアム	近代建築史

計 65 件

(4) 資料の保守・保存環境保全

ア 文化財害虫と空中浮遊菌類の燻蒸及び調査

(ア) 燻蒸消毒

文化財収蔵庫において殺菌・殺虫効果のある燻蒸剤「アルプ」を使用した燻蒸をおこなった。第3資料室・調査研究室・大型資料室・第1民俗資料室・展示室の一部においてピレスロイド系殺虫剤の空中噴霧による燻蒸を行った。さらに調査研究室では「アルプ」による被覆くん蒸を行った。いずれも効果判定材料である供試虫の致死率 100%が認められた。6月21日～6月27日。(担当: 瀬川・山本)



(4)-ア-(ア) 燻蒸消毒 (文化財収蔵庫)

(イ) 調査

文化財収蔵庫・第3資料室・調査研究室・大型資料室・第1, 第2民俗資料室・第1, 第2歴史資料室・人文資料室・恒温恒湿室・資料整理室・考古資料室・視聴覚資料室・自然研究室・図書室・特別展示室・特別展示準備室・人文館展示室・自然館展示室において, インセクトトラップ・フェロモントラップを設置し, 歩行性昆虫類やタバコシバンムシなどの文化財害虫の生息状況を調査した。各所でチャタテムシ類が捕獲され, 一部では歩行性昆虫類も捕獲された。シバンムシ類の捕獲はほぼなかった。捕獲数が多い個所には, 樹脂蒸散性防殺虫剤を設置した。6月26日～8月7日。(担当: 瀬川・山本)

イ 国指定重要文化財スチームハンマーの保存環境測定・定期保守点検

ヴェルニー記念館で保存・管理する国指定重要文化財スチームハンマー 2 基 (旧横須賀製鉄所設置, 1865 年オランダ製: ① 0.5 トン片持ち形・② 3 トン門型) のについて, 保存環境測定と定期保守点検を行った。

(ア) 保存環境測定

スチームハンマーの保存に影響する因子の特定及び今後の維持管理方法の検討データの収集のため, 空気環境データを年 2 回 (8 月 13 日・3 年 3 月 11 日) 測定した。(担当: 菊地)

測定場所

ヴェルニー記念館 (東逸見町 1-1) の室内外の計 2

地点.

測定項目および方法

①濾過捕集による「浮遊粒子状物質 (SPM)」の重量濃度測定, ②ザノレットマン吸光光度法による「二酸化窒素」の濃度測定, ③濾過捕集による「粒子状酸性成分」濃度のイオンクロマト分析の3項目で, ①, ②は日中時間内の1時間値を1回, ③は日中時間内の6時間値を1回測定した.

測定結果

測定結果は右表のとおり. アルデヒドにおける不検出値は, 「ホルムアルデヒド 8 以下, アセトアルデヒド 5 以下」で, 粒子状酸性成分における不検出値は, 「塩化物イオン 0.069 以下, その他 0.17 以下」とした. 気象条件等も併せて記録した.

表 令和2年度測定結果一覧

調査項目	測定日・場所		3年3月11日	
	8月13日	屋外	室内	屋外
天候	-	晴	-	晴
気温 (°C)	27.0	32.0	16.0	11.0
湿度 (%)	55.0	73.0	41.0	48.0
風向	-	西	-	西
風速 (m/s)	-	1.0-1.1	-	1.0-1.5
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.004	0.015	0.003	0.011
ホルムアルデヒド (ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出
アセトアルデヒド (ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出
酸性成分	塩化物イオン (μg/m ³)	13	39.0	13.0
	亜硝酸イオン (μg/m ³)	不検出	不検出	不検出
	硝酸イオン (μg/m ³)	16.0	23.0	15.0
	硫酸イオン (μg/m ³)	28.0	62.0	59.0

(イ) 定期保守点検

スチームハンマー 2 基の保存処理と保存状態の点検を 3 年 3 月 8 日に行った. (担当: 菊地)

《リーフレット》

エコスタンプ
—よこすかの歴史を彩る植物たち—

● 対象 新刊書から雑誌—5/11(日)
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本製作体験

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

令和2年度 年間行事
2020年4月～2021年3月

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

足跡化石から探る太古の世界
—高塚からナウマンゾウまで—

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本製作体験

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

植物標本のつくりかた

● 対象 年齢 小学生以上
● 対象 年齢 小学生以上
● 材料費なし 押印済スタンプシート・植物標本
● 場所 横須賀市立自然史博物館
● 申し込み 横須賀市立自然史博物館 受付

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事の中止に伴い配布中止

8 管理事業

(1) 施設利用

ア 団体による見学等利用

(ア) 学校教育関係

日付	学校・学年等	施設
9月16日	大楠小学校	天神島
10月14日	武山小学校	天神島
10月14日	大楠小学校2年	天神島
10月16日	大楠小学校	天神島
10月16日	田浦中学校	ヴェルニー
10月29日	北里大学海洋生命科学部	天神島
10月30日	北里大学海洋生命科学部	天神島
11月4日	北里大学海洋生命科学部	天神島
11月5日	北里大学海洋生命科学部	天神島
11月6日	横須賀市立馬堀小学校5年	馬堀
11月8日	東海大学	本館

11月13日	大楠小学校	天神島
11月13日	富士見小学校	天神島
11月19日	北里大学海洋生命科学部	天神島
11月20日	北里大学海洋生命科学部	天神島
12月22日	三浦市立旭小学校	本館
3年3月17日	大楠中学校	天神島
3年3月26日	武蔵高校	本館

計18件

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園，
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

(イ) 学校教育以外

日付	団体名	施設
5月22日	大楠愛児園	天神島
7月8日	シモソノ学園	天神島
7月10日	好古会	本館
7月14日	パンダ保育園	本館
7月17日	上町協会付属めぐみ幼稚園	天神島
7月21日	杜ちやいど園	天神島
7月22日	シモソノ学園	天神島
8月7日	好古会	本館
8月9日	ムラカミスポーツ	天神島
8月16日	三浦半島昆虫研究会	本館
8月29日	渋谷ハイキング愛好会	ヴェルニー
9月8日	神年協 茅ヶ崎東部分会	ヴェルニー
9月11日	好古会	本館
9月25日	葉山にこここ保育園	本館
10月2日	放課後等デイサービス	天神島
10月7日	くすくすの森	天神島
10月9日	好古会	本館
10月9日	津久井保育園	本館
10月18日	三浦半島昆虫研究会	本館
10月29日	あゆみ保育園	本館

10月30日	あゆみ保育園	本館
11月11日	自民党議員団	ヴェルニー
11月13日	好古会	本館
11月13日	鎌倉散歩の会	ヴェルニー
11月15日	戦争遺跡を見る会	馬堀
11月15日	横須賀市観光協会	ヴェルニー
11月17日	あゆみ保育園	本館
11月19日	あゆみ保育園	本館
11月19日	苔むすび	馬堀
12月11日	好古会	本館
12月11日	学童まぼりっ子クラブ	馬堀
12月12日	三浦半島昆虫研究会	本館
12月13日	さわやか趣味の会	ヴェルニー
12月22日	あゆみ保育園	本館
12月23日	はとバス観光	ヴェルニー
3年1月9日	横須賀植物会	本館
3年3月16日	あゆみ保育園	本館

計37件

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園，
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

イ 調査・研究等利用

日付	利用者・団体名	施設
3年3月17日	森 慎一（元平塚市博物館）	天神島
3年3月30日	森 慎一（元平塚市博物館）	天神島

計2件

※ 天神島：天神島臨海自然教育園

(2) 開館園日数・入館園者数

月	本館		馬堀		天神島		ヴェルニー		合計
	日数	入館者	日数	入館者	日数	入館者	日数	入館者	入館園者数
4	0	0	11	100	11	2,463	0	0	2,563
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	25	2,323	25	189	9	2,768	9	1,528	6,808
7	27	2,619	27	165	27	6,563	27	2,989	12,336
8	26	3,376	26	168	26	11,785	26	4,068	19,397
9	26	2,816	26	113	26	6,395	26	3,937	13,261
10	27	2,921	27	120	27	5,423	27	4,774	13,238
11	25	3,477	25	216	25	6,036	25	4,856	14,585
12	24	2,843	24	114	24	2,546	24	2,324	7,827
1	7	881	7	32	7	960	7	600	2,473
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	20	2,629	20	139	20	2,803	20	3,263	8,834
計	207	23,885	218	1,356	202	47,742	191	28,339	101,322

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園（ビジターセンター含む），
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

※ 臨時休館日：4月1日～5月31日，3年1月12日～3月7日（本館，馬堀自然教育園）
4月1日～6月19日，3年1月12日～3月7日（天神島臨海自然教育園，
天神島ビジターセンター，ヴェルニー記念館）

(3) 人事

- 4月1日 採用 担当者 青木微笑
4月1日 転入 再任用 亀井泰治（都市部公共建築課から）
6月30日 転出 館長 志村恭一（こども育成部へ）
6月30日 転出 課長 高木 厚（文化スポーツ観光部文化振興課へ）
7月1日 転入 館長 佐々木暢行（文化スポーツ観光部文化振興課から）
7月1日 転入 課長 高橋直人（教育総務部生涯学習課から）
9月1日 採用 非常勤職員 等々力政彦（産休代替職員として）
12月31日 退職 非常勤職員 等々力政彦
3年3月31日 転出 課長 高橋直人（学校教育部生涯学習課へ）
3年3月31日 転出 課長補佐（主査） 久保田毅（教育総務部美術館運営課へ）
3年3月31日 転出 再任用 亀井泰治（教育総務部生涯学習課へ）

(4) 予算

令和2年度（給与費を除く）

費目	予算額（千円）
資料収集調査研究費	1,247
資料分類整理保存費	7,369
展示教育普及費	16,192
営繕工事費	14,762
博物館本館費	62,304
自然教育園費	29,637
ヴェルニー記念館費	9,313
計	140,824

(5) 営繕工事

ア 自然・人文博物館送排風機更新工事

令和元年度に実施できなかった自然・人文博物館の送排風機更新工事を行った。（担当：久保田）

(6) 消防訓練・避難訓練

ア 本館

1月26日の文化財防火デーにあわせ，例年，横須賀市中央消防署と共催で消防訓練を行っているが，新型コロナウイルスの影響により共催での実施ができなかったため，単独で消防訓練を行った。（担当：金満）

(7) ホームページ・メールマガジン・SNS

ア ホームページ

博物館ホームページを51回更新した。閲覧数（セッション数）は85,638回。（担当：柴田）

イ メールマガジン

メールマガジンを11回配信した。メールマガジンの登録数623人、配信数455人（3年3月31日）。各メールマガジンには「学芸員自然と歴史のたより」を掲載した。タイトルと執筆者は以下のとおり。（担当：柴田）

号	タイトル	執筆者
4月30日号	休館中の展示の修復と製作	萩原
6月2日号	「たんぼぼ」を観察してみよう	山本
6月30日号	幕末のコレラ流行	藤井
7月30日号	葉山層群と断層	柴田
9月2日号	古東京湾の地層：大津砂泥部層	柴田
9月30日号	最近みつけためずらしい昆虫たち	内船
10月31日号	「新しい生活様式」は初めてですか？	瀬川
12月1日号	冬鳥観察のすすめ	萩原
12月26日号	三浦半島の農業と三浦ダイコンの変遷	等々力
3年2月3日号	アホでもヘボでもありません！	瀬川
3年3月2日号	三浦半島と周辺海域の活断層	柴田

ウ ツイッター

4月1日から、3年3月31日までに345件の投稿を行った。（担当：青木）

エ インスタグラム

4月1日から、3年3月31日までに39件の投稿を行った。（担当：青木）

オ 横須賀市博ムービーチャンネル (YouTube)

動画投稿サイトYouTubeを活用し、三浦半島の自然や歴史、展示解説などの動画を紹介した。動画32件、視聴回数合計12,143回、総再生時間279.8時間（令和2年度）。（担当：柴田・青木）

(8) 講習会等の参加

(ア) 神奈川県博物館協会研修会等

令和2年度は実績なし

(イ) その他研修会

博物館職員研修会「博物館における人文系資料の管理と活用 - 地域資料を中心に -」, 12月13日, 講師: 立教大学特任准教授 滝口正哉氏, 本館.

博物館職員研修会「民俗資料を中心とした博物館資料の保存と活用について」, 3年3月11日, 講師: 和洋女子大学准教授 加藤紫織氏, 本館.

博物館職員研修会「歴史資料の保存と活用 - 自治体と地域の博物館 -」, 3年3月23日, 講師: 国文学研究資料館准教授 西村慎太郎氏, 本館.

(ウ) 学協会等参加

全国博物館大会, 11月25日・26日, 横浜市開港記念会館. (参加: 内船・瀬川)

日本学術会議史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会, シンポジウム「今後の博物館制度を考える～博物館法改正を見据えて～」, 3年3月2日, オンライン. (参加: 山本)

日本植物分類学会第20回大会, 3月8～10日, オンライン. (参加: 山本)

職員名簿（令和2年度）

館長 志村 恭一（6月まで） 佐々木 暢行（7月から）
運営課長 高木 厚（6月まで） 高橋 直人（7月から）

（管理運営係）

係長 金満 嘉政
主査 久保田 毅
主任 横山 靖志
担当者 青木 微笑
担当者 亀井 泰治

（自然部門）

学芸員・主査 萩原 清司（海洋生物学）（天神島臨海自然教育園）
学芸員・主任 柴田 健一郎（地球科学） 非常勤職員 中村 薫
学芸員・主任 内船 俊樹（昆虫学） 非常勤職員 小長谷 美沙
学芸員 山本 薫（植物学）
学芸員・非常勤 等々力 政彦（植物学）

（人文部門）

学芸員・主査 菊地 勝広（建築史学）
学芸員 瀬川 涉（民俗学）
学芸員 藤井 明広（文献史学）

《表紙写真解説》

おうちで博物館「横須賀市博ムービーチャンネル」

動画投稿サイト YouTube を活用し、三浦半島の自然や歴史、展示解説などの動画を紹介した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響下で、自宅で児童生徒が学習できることを目指した。令和2年4月14日開設。令和3年度は32件の動画を公開し、視聴回数合計12,143回、総再生時間279.8時間であった。今後も魅力的な動画の公開を進める予定である。

（柴田）

館報編集委員会：瀬川 涉・青木微笑・内船俊樹（編集担当：山本 薫・瀬川・内船）

横須賀市博物館報 第68号

2021年12月 発行

編集・発行 横須賀市自然・人文博物館

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

電話 046-824-3688 Fax. 046-824-3658

e-mail m-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>

